

Museum Data

Number 74
ISSN 1346-5155

ミュージアム・データ
Newsletter of TANSEI INSTITUTE



写真上 島根県立古代出雲歴史博物館
写真下 金沢能楽美術館

写真上 北九州市立文学館
写真下 がすてなーに ガスの科学館

特集 2006年度開設博物館情報 (開設博物館一覧表：194館掲載)

特集 2006年度リニューアル博物館情報 (リニューアル博物館一覧表：203館掲載)

● Museum in News 新聞タイトルリリース情報

特集：2006年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、平成18年度（2006年4月～2007年3月）に開設した全国の博物館数は194館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2006年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設館リストを掲載します。

■2006年度開設博物館の傾向

2006年度の開設博物館数は昨年度の218館に比べて大幅に減少しました。1999年度に300館を割って以来、200館台で推移してきた開設博物館数が、初めて200館を割りました。一方で、リニューアルオープンする博物館数は年々増加傾向にあり、初めて開設博物館数を超える結果となりました。

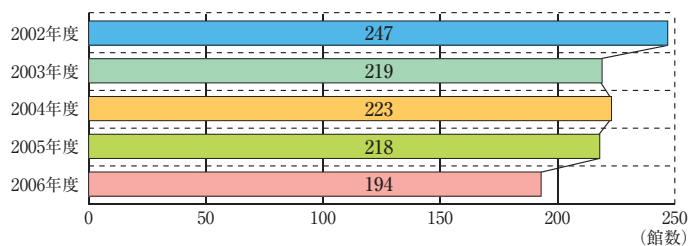
2006年度の開設博物館は、博物館を単独で建設するケースが35%、既存施設を転用して博物館とする「既存施設活用型」や複合施設などの建設に伴い、一部に博物館を設置する「複合施設型」による開設が合わせて65%を占めており、昨年度までと同様に半数以上が単独による建設を行わない方法によって開館しています。

「既存施設活用型」は、既存施設を活用して博物館を単体で設置するケースと他の機能を有する施設に併設するケースの2種類で構成し、その割合は半々程度の結果となりました。少子化や市町村合併により統廃合された旧校舎や庁舎・役場などを活用した事例や閉館した博物館などの展示施設を活用して、新たに開館する博物館が多く見られました。また、商業施設や観光地の観光案内施設や空き店舗、あるいは、図書館やコミュニティーセンターなどの複合文化施設に開設するなど、集客性の高い施設に設置するケースが目立ちます。また、既存の博物館が館内の空きスペースを貸し出し、そのスペースに新たに開館するケースも見られました。

「複合施設型」は、新たに建設される商業施設や観光施設など、「既存施設活用型」と同様に集客性の高い施設に設置されている事例が目立ちます。また、企業が自社建物や工場を新たに建設する際にPR施設を同時に設置するケースも目立ちます。

そのほか、2006年度の開設博物館には、市町村合併を控えた地域が合併特例債を活用して開設する博物館が見られたことが特徴の一つに挙げられます。また、2005年に開催された愛知万博の建物を活用した展示施設や、各国の展示物を活用した博物館も見られました。

<図-1>開設博物館数の推移



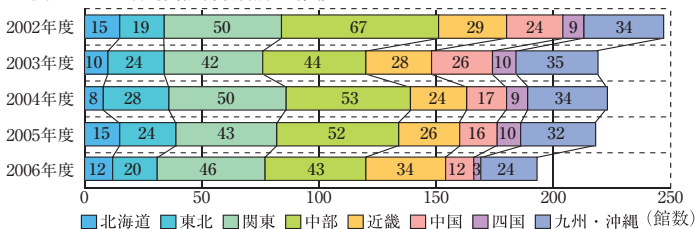
■地域別に見た開設傾向

地域別開設博物館数は、昨年度と比べて、近畿（26館→34館）が大幅に増加し、関東（43館→46館）において若干、増加しています。一方、中部（52館→43館）、九州・沖縄（32館→24館）、四国（10館→3館）の減少が目立っています。

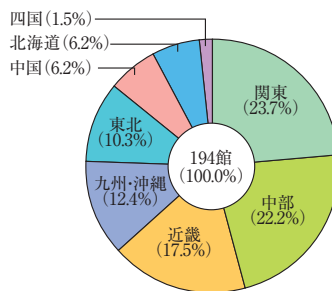
都道府県の開設博物館数を見ると、新潟県（9館→1館）、香川県（8館→1館）の大幅な減少が目立っており、中部、四国の減少に大きく影響しています。そのほかの都道府県においては、大幅な増減は見られませんでした。東北や中国、九州・沖縄に位置する都道府県で若干減少している都道府県の割合が多く占めたことが減少傾向となり、一方で、関東、近畿に位置する都道府県では、減少した都道府県が少なく、若干の増加が見られた都道府県の割合が多く占めたことが増加に繋がっています。大都市圏においては開設博物館数が一定数維持され、地方において減少傾向が見られました。

なお、山口県、愛媛県、宮崎県については、2006年度の開設博物館を確認することができませんでした。

<図-2>地域別開設博物館数の推移



<図-3>開設博物館数の地域別比率



■館種別に見た開設傾向

館種別開設博物館数は、昨年度と比べて、自然史（12館→20館）の増加が目立ちます。背景には、環境学習施設や自然啓発施設の増加傾向が挙げられます。一方、人文（135館→111館）で大幅に減少しています。しかし、構成比を見ると、人文（60.1%→61.9%→57.2%）では過去10年間5割以上で推移しており、依然半数以上を占める高い割合となっています。

<表-1>館種別開設博物館数

	2004年度	2005年度	2006年度
全 体	223館 (100.0%)	218館 (100.0%)	194館 (100.0%)
人 文	134館 (60.1%)	135館 (61.9%)	111館 (57.2%)
美 術	49館 (22.0%)	56館 (25.7%)	50館 (25.8%)
自 然 史	19館 (8.5%)	12館 (5.5%)	20館 (10.3%)
理 工	13館 (5.8%)	12館 (5.5%)	10館 (5.2%)
動 水 植	8館 (3.6%)	3館 (1.4%)	3館 (1.5%)

※（ ）内は構成比

■設立主体別に見た開設傾向

設立主体別開設博物館数は、昨年度と比べて、法人（56館→73館）、国（8館→14館）が増加しました。法人の中では、企業が所有するコレクションの展示施設やPR館の開設が半数以上を占めており、近年、多くの事例が見られます。そのほか、NPO法人や学校法人が設置する博物館も目立ってきています。また、寺社（宗教法人）が所有する文化財を公開する展示施設が開設されてきていることが特徴の一つに挙げられます。国では、国立の大学が設置する博物館が半数近くを占めました。国立大学法人、学校法人が設置する大学博物館が各地で開設されたことが、国と法人の増加の要因の一つになっていると考えられます。

一方、町・村（41館→11館）は、昨年度と比べて、大幅に減少しました。町・村では、毎年40館以上の開設博物館数を数えてきましたが、市町村合併（平成の大合併）による町・村数の大幅な減少が大きく影響し、町・村が設置する博物館の大幅な減少につながったと考えられます。また、2006年度開設博物館には、合併される前の町・村の時から施設整備計画が始まり、合併後の新市でオープンした博物館も複数見られました。個人・その他（43館→31館）は減少しましたが、個人コレクション館や市民団体が地域の歴史を紹介する展示施設などは、毎年一定数の開設が見られます。

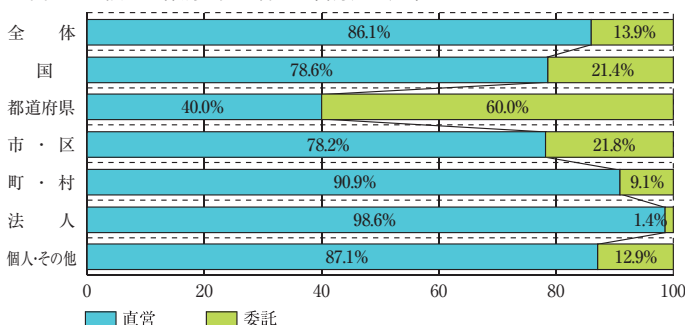
＜表－2＞設立主体別開設博物館数

	2004年度	2005年度	2006年度
全 体	223館 (100.0%)	218館 (100.0%)	194館 (100.0%)
国	10館 (4.5%)	8館 (3.7%)	14館 (7.2%)
都道府県	13館 (5.8%)	11館 (5.0%)	10館 (5.2%)
市・区	49館 (22.0%)	59館 (27.1%)	55館 (28.4%)
町・村	57館 (25.6%)	41館 (18.8%)	11館 (5.7%)
法人	60館 (26.9%)	56館 (25.7%)	73館 (37.6%)
個人・その他	34館 (15.2%)	43館 (19.7%)	31館 (16.0%)

※（ ）内は構成比

国には、環境省や農林水産省、独立行政法人、国立大学法人の施設が含まれています。法人には、公益法人や会社法人、学校法人、NPO法人などの施設が含まれます。個人・その他には、市民団体や複数の行政によって設置されている施設、行政と法人によって設置されている施設なども含まれています。

＜図－4＞設立主体別に見る管理運営方式の比率



全体の比率は昨年度と比べて直営方式（83.0%→86.1%）が増加しています。設立主体別に見ると、都道府県と個人・その他以外では直営方式が増加傾向にあります。「指定管理者制度」が導入された2003年度以降（2006年度を含む）の平均値で見ると、市・区（70.6%）、町・村（82.1%）では、直営方式が高い割合で推移しています。一方、都道府県（49.5%）は直営方式が約半数の割合で推移しています。市・区、町・村に見られる直営方式の増加傾向は、「指定管理者制度」導入後の様々な状況を踏まえた上で、新たに開設した博物館を直営方式で運営すると判断したと捉えることができる、興味深いデータです。

■施設規模に関する傾向

有効データ数：117館 延床面積は、全体の平均値（1,421㎡→1,537㎡→1,659㎡）が年々増加しています。大型の施設の開設により平均値は年々増加傾向を示している一方で、中央値が平均値を依然大きく下回っており、中・小規模の施設が多くを占めていることがわかります。館種別に見ると、美術で、平均値、最大値がともに昨年度を上回っており、規模の大きい美術館が複数開設されたことがわかります。一方で、美術以外の館種では平均値が昨年度を下回っています。また、最大値では、人文、自然史で昨年度を大きく下回っています。すべての館種において平均値と中央値の開きが大きく、中・小規模化が顕著に表れています。

次に、設立主体別に見ると、昨年度に比べて、都道府県、法人の平均値が増加しています。一方、そのほかの設立主体では減少しています。最大値では、国、都道府県の増加が目立っていますが、中央値で大幅に減少していることから、大規模施設が開設されていても、中・小規模の施設が多くを占めていることがわかります。

規模別開設博物館数の比率を見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合（67.9%→76.9%→65.8%）が高い割合で推移しています。館種別に見ると、人文、美術、自然史で、500㎡未満の施設が昨年度から引き続き半数以上の割合を占めています。

＜表－3＞館種別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (117館)	47,638<30,085>	35< 40>	1,659<1,537>	471< 382>
人 文 (63館)	11,855<30,085>	43< 40>	1,117<1,504>	464< 359>
美 術 (34館)	47,638< 9,876>	61< 66>	2,902<1,257>	490< 371>
自然史 (15館)	3,786< 7,290>	35< 98>	916<1,812>	362< 379>
理 工 (5館)	6,472< 5,884>	411< 180>	2,271<3,389>	1,107<4,240>
動水植 (0館)	—< 770>	—< 770>	—< 770>	—< 770>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は㎡

すべての館種において、中央値が平均値を大きく下回っているため、平均値以下の施設が多数を占めていることがわかります。

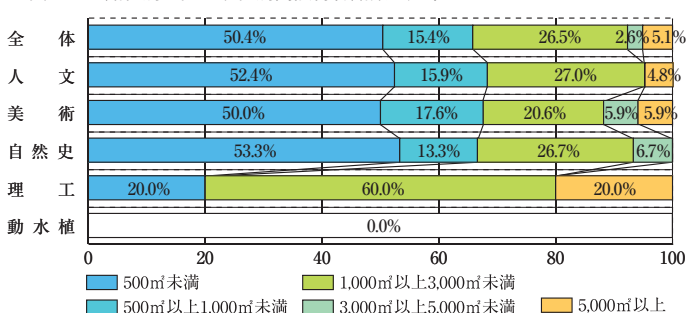
＜表－4＞設立主体別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (117館)	47,638<30,085>	35< 40>	1,659< 1,537>	471< 382>
国 (7館)	47,638<30,085>	192< 257>	7,418<10,417>	357< 910>
都道府県 (8館)	21,133< 9,876>	356< 180>	5,499< 4,971>	2,226<5,983>
市・区 (45館)	10,291< 9,886>	35< 158>	1,242< 1,806>	872< 570>
町・村 (5館)	891< 2,464>	280< 53>	523< 575>	422< 373>
法 人 (32館)	6,472< 5,773>	43< 90>	914< 782>	443< 369>
個人・その他 (20館)	5,000<13,309>	50< 40>	523< 766>	182< 135>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は㎡

町・村では最大値・平均値・中央値の開きが小さく、中・小規模の施設の開設が顕著に表れています。

＜図－5＞館種別に見る規模別開設博物館数の比率



■総工事費に関する傾向

有効データ数：61館 全体の平均値（1,560,464千円→1,394,477千円）は昨年度と比べて減少しています。館種別に見ると、美術では、昨年度に比べて平均値、最大値がともに大幅に増加しており、大規模施設の開設が影響した結果と考えます。一方、人文、自然史で、平均値、最大値がともに大幅に減少しており、中・小規模による開設傾向が顕著に表れています。

次に、設立主体別に見ると、昨年度に引き続き、都道府県、法人の平均値が増加し、そのほかの設立主体では減少しています。最大値では、国、都道府県、法人が増加しており、大規模施設の開設が確認できます。市・区、町・村では、昨年度に比べて平均値、最大値がともに大幅に減少しており、中・小規模化の傾向を示しています。

総工事費別開設博物館数の比率を見ると、5億円未満（68.9%→71.0%→67.2%）の施設が高い割合で推移しています。館種別に1億円未満の施設の割合を見ると、人文（37.9%）、美術（42.1%）で、それぞれ4割前後の結果となり、中・小規模施設の開設が多くを占めていることがわかります。一方、美術では50億円以上（10.5%）の大規模施設が複数開設されたことがわかります。以上の総工事費に関する分析からも、中・小規模化の傾向を裏付けています。

＜表－5＞館種別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (61館)	35,000,000 <29,900,000>	2,000 <1,000>	1,394,477 <1,560,464>	200,000 <122,000>
人 文 (29館)	12,000,000 <29,900,000>	3,413 <1,458>	698,167 <1,684,360>	198,000 <123,958>
美 術 (19館)	35,000,000 <6,300,000>	2,000 <1,000>	2,780,808 <989,067>	168,050 <50,000>
自 然 史 (11館)	2,100,000 <7,166,000>	24,000 <12,000>	484,626 <1,764,599>	269,000 <115,633>
理 工 (2館)	4,150,000 <4,895,625>	2,500,000 <15,000>	3,325,000 <2,236,056>	3,325,000 <1,981,954>
動 水 植 (0館)	— <325,000>	— <325,000>	— <325,000>	— <325,000>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は千円

中央値は昨年度に比べて、すべての館種で増加しています。しかし、理工を除く館種において、中央値が平均値を下回っており、また、平均値と中央値の差は依然大きく、中・小規模の施設が多数を占めていることがわかります。

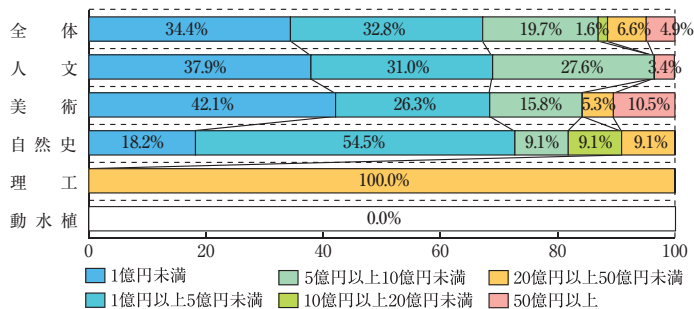
＜表－6＞設立主体別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (61館)	35,000,000 <29,900,000>	2,000 <1,000>	1,394,477 <1,560,464>	200,000 <122,000>
国 (5館)	35,000,000 <29,900,000>	24,000 <38,325>	7,220,000 <14,969,163>	316,000 <14,969,163>
都道府県 (5館)	12,000,000 <8,900,000>	150,830 <88,000>	5,130,566 <4,121,143>	2,100,000 <3,140,000>
市・区 (27館)	2,990,000 <6,500,000>	2,000 <10,346>	452,082 <1,404,632>	235,998 <140,647>
町・村 (5館)	430,360 <2,000,000>	10,000 <4,052>	167,472 <339,046>	150,000 <135,969>
法 人 (12館)	4,150,000 <700,000>	23,844 <1,458>	756,389 <108,891>	202,730 <20,000>
個人・その他 (7館)	950,000 <8,000,000>	18,000 <1,000>	170,000 <742,222>	45,000 <12,000>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は千円

国、都道府県では、中央値が昨年度に比べて、大幅に減少しています。また、すべての設立主体において、中央値が平均値を下回っており、平均値以下の施設がそれぞれにおいて多数を占めていることがわかります。

＜図－6＞館種別に見る総工事費別開設博物館数の比率



■入館料金や休館日の設定に関する傾向

有効データ数：194館 有料館と無料館の比率は、昨年度と比べて無料館の割合が高くなっています。近年の傾向を見ると、5割前後で推移しています。館種別に無料館の比率を見ると、人文（56.3%→64.9%）、自然史（83.3%→90.0%）、理工（66.7%→80.0%）で増加しています。また、昨年度と同様に自然史、理工、人文、美術の順で高い値を示しています。

入館料金の設定状況を見ると、昨年度に比べて平均値（382円→510円）が増加しています。無料館の割合が最も高かった自然史が、最大値、平均値ともに最も低い金額の結果となりました。入館料金の設定額を見ると、500円（25.0%）、200円（19.0%）、300円（15.5%）の順で多く採用されています。

有効データ数：108館 休館日の設定状況を見ると、昨年度に引き続き月曜日（50.9%）を休館日に設定している施設が5割を超えています。次に土・日・祝日（22.2%）、火曜日（13.0%）の順で多くなっています。昨年度に比べて、土・日・祝日の休館日の割合が高くなった背景には、企業や大学が設置する博物館が増加したことが影響していると考えます。最近の傾向として、お盆や年末年始など、帰省客への対応として、休館日を返上して開館するケースが各地で見られるようになってきています。

＜表－7＞館種別の有料館数と無料館数

	有料館	無料館
全 体 (194館)	87館 (44.8%) <110館 (50.5%)>	107館 (55.2%) <108館 (49.5%)>
人 文 (111館)	39館 (35.1%) <59館 (43.7%)>	72館 (64.9%) <76館 (56.3%)>
美 術 (50館)	41館 (82.0%) <42館 (75.0%)>	9館 (18.0%) <14館 (25.0%)>
自然史 (20館)	2館 (10.0%) <2館 (16.7%)>	18館 (90.0%) <10館 (83.3%)>
理 工 (10館)	2館 (20.0%) <4館 (33.3%)>	8館 (80.0%) <8館 (66.7%)>
動水植 (3館)	3館 (100.0%) <3館 (100.0%)>	0館 (0.0%) <0館 (0.0%)>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値

＜表－8＞館種別に入館料金（最大値、最小値、平均値）

	最大値	最小値	平均値
全 体 (84館)	1,785 <1,800>	50 <100>	510 <382>
人 文 (39館)	1,500 <1,000>	50 <100>	442 <335>
美 術 (38館)	1,200 <1,000>	200 <100>	536 <400>
自然史 (2館)	300 <400>	200 <200>	250 <300>
理 工 (2館)	500 <500>	500 <210>	500 <353>
動水植 (3館)	1,785 <1,800>	800 <100>	1,262 <1,133>

※（ ）内は有効データ館数 ※一般（大人料金）ただし企画・特別展料金を除く
※< >内は前年度数値 ※単位は円

2006年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる平成18年度（2006年4月～2007年3月）の開設館のリストです。このなかには、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

●北海道

館 園 名	年 月	所 在 地	電話番号
赤平市炭鉱歴史資料館	06.05	赤平市赤平668	0125-32-1822
旭川市博物館分館 アイヌ文化の森 伝承のコタン	06.04	上川郡鷹栖町近文9線西4 嵐山公園センター内	0166-55-9779
雨竜沼自然館	06.04	雨竜郡雨竜町満寿28-3道の駅田園の里うりゅう内	0125-79-2100
おもちゃの館 タイムトンネル	06.07	中川郡幕別町札内西町60-1	0155-66-5230
カール・レイモン歴史展示館	06.04	函館市元町30-3 レイモンハウス元町店2階	0138-22-4596
五稜郭歴史回廊	06.04	函館市五稜郭町43-9 五稜郭タワー内	0138-51-4785
札幌市文化資料室	06.04	札幌市中央区南8条西2	011-521-0205
サホロリゾートベア・マウンテン	06.04	上川郡新得町狩勝高原	0156-64-7007
士別河川防災ステーション川の遊学館[めぐみ]	06.05	士別市東山町3345-2	0165-23-4400
シラルト口自然情報館	06.05	川上郡標茶町コッタ口原野	015-487-2121
宮島沼水鳥・湿地センター	07.03	美瑛市西美瑛町大曲3区	0126-66-5066
六創美術館	06.06	北見市とん田西町226-14	0157-23-4775

●青森県

青森県立美術館	06.07	青森市安田近野185	017-783-3000
櫛引八幡宮 国宝館	07.03	八戸市八幡八幡丁3	0178-27-3053
田村進彫刻館 ふくろう館	06.12	青森市浪岡女鹿沢野尻4-2 道の駅なみおか アップルヒル敷地内	0172-62-8068
深浦町美術館	06.04	西津軽郡深浦町深浦苗代沢80-1	0173-74-3882
むつ来さまい館	06.04	むつ市田名部町10-1	0175-33-8191

●岩手県

赤沢郷土資料館	06.04	紫波郡紫波町赤沢駒場2-2	019-676-3036
賢治に捧ぐ 柚木沙弥郎 マヂエル館	06.04	盛岡市材木町2-18	019-622-2894
二戸市埋蔵文化財センター	06.04	二戸市福岡八幡下11-1	0195-23-8020
文学の蔵	06.04	一関市田村町5-42世傳の一酒の民俗文化博物館内	0191-26-1040
平和ミュージアム旧日本陸海軍博物館	06.06	奥州市江刺区岩谷堂向山3-157	0197-35-4206

●宮城県

大衡城青少年交流館民俗資料展示室	06.05	黒川郡大衡村大衡塩浪4-2	022-345-6790
しんせい資料館	06.06	登米市泊町新田上葉ノ木沢1 東北新生園内	0228-38-2121
仙台市縄文の森広場	06.07	仙台市太白区山田上ノ台町10-1	022-307-5665

●秋田県

合川歴史民俗資料室	06.09	北秋田市新田目大野82-2 合川支所2階	0186-78-2114
あきた文学資料館	06.04	秋田市中通6-6-10	018-884-7760
柳葉敏郎氏展示室	06.11	大仙市刈和野山北ノ沢5-4 西仙北ぬく森温泉ユメリア内	0187-87-3100

●山形県

金山町教育文化資料館	06.07	最上郡金山町朴山890-2 旧金山小学校朴山分校	0233-52-2111
------------	-------	--------------------------	--------------

●福島県

郷さくら美術館	06.10	郡山市長者1-6-16	024-927-1010
円谷幸吉メモリアルホール	07.01	須賀川市牛袋町5 須賀川アリーナ内	0248-76-8111
野馬追通り銘醸館	06.05	南相馬市原町区本町2-52	0244-26-8040

●茨城県

エコフロンティアかさま環境学習施設	06.05	笠間市福田165-1	0296-70-2511
本場結城紬染織資料館（手緒里）	06.04	結城市結城12-2	0296-33-5633
森のフォーチャMOLA美術館	06.04	行方市沖洲1543-10 芸術村内	0299-57-0377

●栃木県

岩下記念館	07.03	栃木市本町1-25	0282-20-5533
住友ミュージアム	06.04	矢板市下伊佐野一本木973-6-1	0287-40-0151
高木盆栽美術館	06.05	下野市業師寺3311-37	0285-44-1754

●群馬県

中曽根康弘資料館	06.05	高崎市末広町44-7	027-320-1000
みなかみ町山岳資料館	07.03	利根郡みなかみ町湯原809-6	0278-72-3737

●埼玉県

川口市立アートギャラリー・アトリア	06.04	川口市並木元町1-76	048-253-0222
川口市立文化財センター	06.06	川口市本町1-17-1	048-222-1061
熊谷市立荻野吟子記念館	06.05	熊谷市俵瀬581-1	048-588-1327
大東文化大学 ヒアトリクス・ボタニツ資料館	06.04	東松山市岩殿554 埼玉県こども動物自然公園内	0493-35-1267
秩父市芸術文化会館	06.10	秩父市大宮794-6	0494-22-2406

●千葉県

外川ミニ郷土資料館	07.03	銚子市外川町2-10610	0479-22-1544
船橋競馬ミュージアム	06.06	船橋市若松1-2-1 船橋競馬場内	047-431-2156
マリーンズ・ミュージアム	06.08	千葉市美浜区美浜1	03-5682-6341

●東京都

IHIIものづくり館（アイミューズ）	06.04	江東区豊洲3-1-1 豊洲IHビル1階	03-6204-7032
青山ユニマツ美術館	06.07	港区南青山2-13-10	03-5771-1900
イラク古代文化研究所 梅ヶ丘展示室	06.04	世田谷区梅ヶ丘2-8-17 国士舘大学地域交流文化センター内	03-5451-1926
UKIYO-e TOKYO	06.10	江東区豊洲2-4-9 アーバン Dock ららぽーと豊洲内	03-6910-1290
花王ミュージアム	07.01	墨田区文花2-1-3 花王すみだ事業場内	03-5630-9004
がすてなーに ガスの科学館	06.06	江東区豊洲6-1-1	03-3534-1111
江東区環境学習情報館 （えこくくる江東）	07.02	江東区潮見1-29-7	03-3644-7130
国立新美術館	07.01	港区六本木7-22-2	03-5777-8600
ごはんミュージアム	06.10	千代田区丸の内3-5-1 東京国際フォーラム内	03-3211-1631
サントリー美術館	07.03	港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド	03-3479-8600
JICA地球ひろば	06.04	渋谷区広尾4-2-24	0120-767278
石洞美術館	06.04	足立区千住橋戸町23	03-3888-7520
台東区立一葉記念館	06.11	台東区竜泉3-18-4	03-3873-0004
田中瑞木美術館	07.03	調布市布田1-32-5 マールコート調布407	042-441-2958
21_21 DESIGN SIGHT	07.03	港区赤坂9-7-6	03-3475-2121
中村研一記念 小金井市立はげの森美術館	06.04	小金井市中町1-11-3	042-384-9800
西山美術館	06.04	町田市野津田町1000	042-708-2480
日本大学文理学部資料館	06.04	世田谷区桜上水3-25-40	03-3329-1151
Fuji Xerox Art Space	07.03	港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウンガレリア3階	03-6271-5260
FUJIFILM SQUARE	07.03	港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウン ウェスト	03-6271-3350
町田市民文学館 こばらんど	06.10	町田市原町4-16-17	042-739-3420
リスーピア	06.08	江東区有明2-5-18 パナソニックセンター東京内	03-3599-2600
立正佼成会開祖記念館	06.06	杉並区和田2-8-36 法輪閣	03-5341-1004
ルーヴル-DNP ミュージアムラボ	06.10	品川区西五反田3-5-20 DNP五反田ビル1階	03-5435-0880
わだつみのこえ記念館	06.12	文京区本郷5-29-13 赤門アビタシオン内	03-3815-8571

●神奈川県

KYB史料館	06.04	相模原市麻溝台1-12-1	0120-145-999
県立津久井湖城山公園パークセンター	06.04	相模原市津久井町根小屋162	042-780-2420
人間国宝美術館	07.01	足柄下郡湯河原町中央3-16-1	0465-62-2112
箱根神社 宝物殿	07.01	足柄下郡箱根町元箱根80-1	0460-83-7123
大和市下鶴間ふるさと館	06.04	大和市下鶴間2359-5	046-272-6556

●新潟県

河井継之助記念館	06.12	長岡市長町1-1675-1	0258-30-1525
----------	-------	---------------	--------------

●富山県

北日本新聞 創造の森 越中座 メディアプラザ（新聞博物館）	06.08	富山市婦中町島本郷10-7	076-493-8100
金融歴史資料館	06.08	富山市堤町通り1-2-26	076-423-7111
となみ散居村ミュージアム	06.06	砺波市太郎丸80	0763-34-7180
水見市柳田布尾山古墳公園 古墳館	06.04	水見市柳田布尾山	0766-74-8215

●石川県

石川県立自然史資料館	06.05	金沢市銚子町リ441	076-229-3450
石川県郷土人間国宝館	07.03	加賀市加茂町ハ90-1 加賀藩文化村内	0761-77-1010
金沢能楽美術館	06.10	金沢市広坂1-2-25	076-220-2790
千代女の里俳句館	06.10	白山市殿町57-1	076-276-0819
ツツジ資料館	06.04	金沢市彦三町1-294-1 彦三緑地内	076-220-2356

●福井県

豊田三郎記念ギャラリー	06.05	福井市美山町7-1 福井市美山総合支所3階	0776-90-1191
-------------	-------	--------------------------	--------------

●山梨県

西湖いやしの里根場	06.07	南都留郡富士河口湖町西湖根場2710	0555-20-4677
高木栄子 紙わらべの蔵	06.07	南都留郡富士河口湖町勝山3730	0555-72-6233
北杜市囲碁美術館	06.08	北杜市長坂町長坂上条2575-19 北杜市長坂総合支所2階	0551-42-1375
保坂紀夫 竹の造形館	06.04	北杜市大泉町谷戸6727-1	0551-38-2211
谷戸城ふるさと歴史館	07.03	北杜市大泉町谷戸2414	0551-20-5505
横溝正史館	07.03	山梨市江曾原1411-6	0553-22-9611

●長野県

飯田市川本喜八郎人形美術館	07.03	飯田市本町1-2	0265-23-3594
現代中国美術館	06.07	上高井郡小布施町小布施519	026-247-6680
佐久市平尾山公園 昆虫体験学習館	06.06	佐久市平尾山2681 佐久平ハイウェイオアシス「パラダ」内	0267-68-1111
小さな美術館軽井沢草花館	06.04	北佐久郡軽井沢町軽井沢19-40	0267-42-0716
根津八紘美術館	06.10	諏訪郡下諏訪町立町3528-8	0266-28-1565
HIOKI ミュージアム	06.09	上田市小泉81 ソリューションファクトリーB棟内	0268-28-0555
丸山晩霞記念館	06.11	東御市常田505-1 東御市文化会館内	0268-62-3700
民話の里おおまち 小太郎	06.04	大町市大町温泉郷2811	0261-22-1942
らいてうの家	06.05	上田市真田町長十の原1278-720	0268-74-1385

●岐阜県

太田宿 中山道会館	06.04	美濃加茂市太田本町3-3-31	0574-23-2200
岐阜現代美術館「Gi-Co-Ma」	06.09	関市桃紅大地1 鍋屋バイテック会社 関工園内	0575-23-1210
下呂市金山郷土館	06.10	下呂市金山町大船渡600-8	0576-32-3893
飛騨市美術館	07.02	飛騨市古川町若宮2-1-58	0577-73-3288
竜鉄也墓情館	06.04	高山市西之一色町3-866	0577-35-5603

●静岡県

伊豆 武者小路実篤 文学館	06.07	伊豆の国市長岡1045-1 伊豆長岡温泉 実篤の宿いつみ荘館内	055-948-1235
小夜の中山 浮世絵美術館「夢灯」	06.10	掛川市佐夜鹿柳屋敷298-2	0537-27-2237
スコッティ・キャメロン ミュージアム&ギャラリー	06.09	磐田市鮫島4119-1 浜松シーサイドゴルフクラブ内	0538-36-2200
高山・市民の森 学習展示施設「森の恵」	06.12	静岡市葵区水見色 高山・市民の森内	054-354-2193
徳川家康ミュージアム	06.11	静岡市駿河区古宿294 すんが夢ひろば内	054-237-4126
初島灯台資料展示館	07.03	熱海市初島444	0557-67-3100
みかんの里資料館	06.10	浜松市北区三ヶ日町福長70-20	053-524-3751

●愛知県

あいひ海上の森センター	06.09	瀬戸市吉野町304-1	0561-86-0606
愛・地球博記念館	07.03	愛知郡長久手町熊張茨ヶ廻間乙1533-1 愛・地球博記念公園内	0561-64-1130
赤崎記念研究館展示室	06.10	名古屋市千種区不老町 名古屋大学東山キャンパス内	052-789-5545
犬山里山学センター	06.07	犬山市塔野地大群364-2	0568-65-2121
堀美術館	06.06	名古屋市東区主税町4-4-2	052-979-5717

●三重県

音とオルゴールのふれあい博物館 「サウンドミュージアム」	06.07	志摩市浜島町大崎半島 合歡の郷内	0599-52-1214
紀北町紀伊長島郷土資料館	06.12	北牟婁郡紀北町紀伊長島区長島2141 紀伊長島体育館内	05974-7-3906
志摩 鈴ミュージアム	06.11	志摩市志摩町越賀1125 大山広苑内	0599-84-0321
2005年万博記念 樋口友好ミュージアム	06.05	津市白塚町北永定2330	0592-32-7989
三重県立熊野古道センター	07.02	尾鷲市向井村島12-4	0597-25-2666

●滋賀県

愛・地球博「エジプト館」	06.09	伊香郡高月町唐川89 北近江リゾート内	0749-85-8888
渡来入歴史館	06.05	大津市梅林2-4-6	077-525-3030
街並・水郷美術館	07.03	近江八幡市多賀町743 前田幸一郎邸内	090-9612-4649

●京都府

京都御苑 閑院宮邸跡 収納展示室	06.04	京都市上京区京都御苑3	075-211-6348
京都国際マンガミュージアム	06.11	京都市中京区烏丸通御池上ル	075-254-7414
三千院宝物館 円融蔵	06.10	京都市左京区大原来迎院町540	075-744-2531
寂光院宝物殿 鳳智松殿	06.10	京都市左京区大原草生町676 寂光院内	075-744-2545
染・清流館	06.10	京都市中京区室町通錦小路上ル 山伏山町550-1 明倫ビル6階	075-255-5301
デキャンタ・ミュージアム	06.05	京都市上京区新町通中立売（御所西） 京都ブライhtonホテル内	075-441-4411
松本明慶 佛像彫刻美術館	06.06	京都市上京区下長者町通室町西入ル 西鷹司町16 プレパレス内	075-332-7974

●大阪府

大阪府営水道見学施設	06.10	守口市大庭町2-30-18	06-6902-3215
関西大学 年史資料展示室	06.10	吹田市山手町3-3-35 簡文館内	06-6368-1062
除痘館記念資料室	07.03	大阪市中央区今橋3-2-17 緒方ビル	06-6231-3257
箕面市立郷土資料館	06.08	箕面市箕面6-3-1	072-723-2235
明治乳業ヨーグルト館	06.04	貝塚市二色南町16 明治乳業関西工場内	072-431-1236

●兵庫県

朝来市埋蔵文化財センター 「古代あさご館」	06.07	朝来市山東町大月91-2 山東PA（道の駅但馬のまほろば）内	079-670-7330
上山高原ふるさと館	06.07	美方郡新温泉町石橋757-1	0796-99-4600
カワサキワールド	06.05	神戸市中央区波止場町2-2 神戸海洋博物館内	078-327-5401
神戸文学館	06.12	神戸市灘区王子町3-1-2	078-882-2028
神戸ゆかりの美術館	07.03	神戸市東灘区向洋町中2-9-1 神戸ファッション美術館1階	078-858-1520
たつの市立埋蔵文化財センター	06.06	たつの市新宮町宮内16	0791-75-5450
流通資料館	06.09	神戸市西区学園西町3-1 流通科学大学内	078-794-3555

●奈良県

橿原市藤原京資料室	06.10	橿原市縄手町178-1 JAならけん橿原東部経済センター2階	0744-20-0188
広陵町文化財保存センター	06.04	北葛城郡広陵町南郷583-1 町役場敷地内	0745-55-1001
梁瀬義亮記念資料室	06.11	五條市五條2-311-1	0747-23-1238

●和歌山県

宇久井ビジュアルセンター	06.07	東牟婁郡那智勝浦町宇久井830 吉野熊野国立公園内	0735-54-2510
橋本市あさもよし歴史館	06.04	橋本市野516	0736-33-0211
南方熊楠顕彰館	06.05	田辺市中屋敷町36	0739-26-9909
和歌山城歴史展示室	06.11	和歌山市一番丁3 和歌山市役所南別館	073-435-1044

●鳥取県

青山剛昌ふるさと館	07.03	東伯郡北栄町由良宿1414	0858-37-5389
-----------	-------	---------------	--------------

●島根県

出雲キルト美術館	06.04	簸川郡斐川町福富330	0853-72-7146
島根県立古代出雲歴史博物館	07.03	出雲市大社町杵築東99-4	0853-53-8600
島根大学ミュージアム	06.04	松江市西川津町1060	0852-32-6496
重要文化財 熊谷家住宅	06.04	大田市大森町ハ63	0854-89-9003
竹下登記念館	06.05	雲南市掛合町掛合955-1	0854-62-0008

●岡山県

倉敷市大野昭和斎記念資料館	06.05	倉敷市西阿知町1144-12	086-466-2533
桃太郎のからくり博物館	07.03	倉敷市本町5-11	086-423-2008
妖精の森 ガラス美術館	06.04	苫田郡鏡野町上齋原666-5	0868-44-7888

●広島県

奥田元宋・小由女美術館	06.04	三次市東酒屋町453-6	0824-65-0010
はらみちを美術館	06.04	三次市君田町泉吉田311-3 君田温泉森の泉内	0824-53-7021
広島大学総合博物館	06.11	東広島市鏡山1-1-1 東広島キャンパス内	082-424-4212

●徳島県

徳島大学ガレリア新蔵	06.04	徳島市新蔵町2-24 地域・国際交流プラザ（日亜会館）内	088-656-7650
------------	-------	---------------------------------	--------------

●香川県

新屋島水族館	06.12	高松市屋島東町1785-1	087-841-2678
--------	-------	---------------	--------------

●高知県

国際交流の館・ジョン万ハウス	06.04	土佐清水市養老303 養老のあしずり港「海の駅あしずり」内	0880-82-3155
----------------	-------	----------------------------------	--------------

●福岡県

北九州市立文学館	06.11	北九州市小倉北区城内4-1	093-571-1505
きらり、発見！堀川ものがたり館	06.10	北九州市八幡西区大膳2-23-1 福岡県立折尾高等学校内	093-691-3561
西南学院大学博物館 （ドージャー記念館）	06.05	福岡市早良区西新3-13-1	092-823-4785
TOTO歴史資料館	07.03	北九州市小倉北区貴船町2-2	093-951-2534

●佐賀県

木下・貝の資料館	06.04	唐津市浜玉町浜崎1345	0955-56-6472
幸音寺仏教資料館	06.06	鳥栖市立石町12-109	0942-82-5584
佐賀大学地域学歴史文化研究 センター（菊楠シュライバー館）	06.04	佐賀市本庄町1	0952-28-8117
吉島家織通ミュージアム	06.04	佐賀市赤松町1-28	0952-24-0778

●長崎県

佐世保空襲資料室	06.12	佐世保市戸尾町5-1 させば市民活動交流プラザ内	0956-31-9236
長崎市歴史民俗資料館	06.04	長崎市平野町7-8 長崎市平和会館内	095-847-9245
長崎大学薬学部 お薬の歴史資料館	06.11	長崎市文教町1-14 薬学部講義棟2階	095-819-2413

●熊本県

芦北町立星野富弘美術館	06.05	葦北郡芦北町湯浦1439-2	0966-86-1600
九州の森林展示館	07.01	熊本市京町本丁2-7 九州森林管理局 庁舎内	096-328-3600
草枕交流館	06.04	玉名市天水町小天735-1	0968-82-4511
熊本大学薬学部 熊薬100周年記念 ホール史料室（熊薬ミュージアム）	06.04	熊本市大江本町5-1 熊本大学薬学部内	096-371-4766

●大分県

岡本陸郎美術館	06.06	玖珠郡九重町湯坪瀬の本628-15	0967-48-8550
高田モダントリックアート 「不思議な美術館」	06.12	豊後高田市高田2848 高田モダン内	0978-22-2434

●鹿児島県

いちき串木野市歴史民俗資料室	06.12	いちき串木野市昭和通133-1 中央公民館内	0996-33-5654
霧島天狗館	07.03	霧島市霧島田口2459-60	0995-64-8880
焼酎蔵薩洲演田屋伝兵衛 伝兵衛ミュージアム	06.09	いちき串木野市湊町4-1	0996-36-3131
徳之島闘牛資料館	06.05	大島郡徳之島町亀津5708 伊藤観光ドーム内	0997-83-2844

●沖縄県

そろばん展示館	06.04	浦添市屋富祖2-26-2 宮城珠算学校内	098-877-1234
那覇市歴史博物館	06.07	那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ4階	098-869-5266
みずの資料館	07.02	那覇市おもろまち1-1-1	098-941-7801

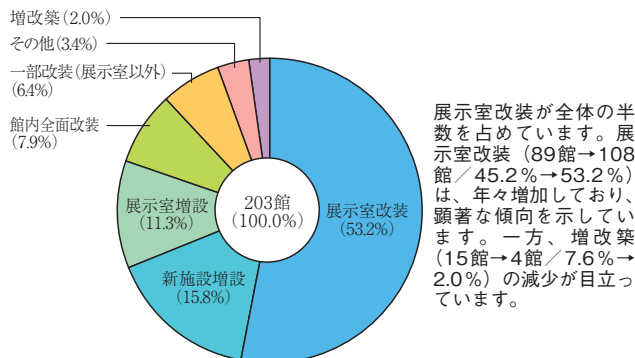
特集：2006年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、平成18年度（2006年4月～2007年3月）にリニューアルを実施した全国の博物館数は203館です。リニューアル博物館の数は年々増加傾向にあり、2006年度は開設博物館数を上回り、初めて200館を超えました（160館→197館→203館）。

2006年度のリニューアル博物館の特徴として、展示内容の見直しを図るとともに、ショップや飲食施設、バリアフリー化など、来館者サービスに考慮した、施設整備が多く見られます。

ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2006年度のリニューアル博物館の傾向について報告します。

＜図－1＞リニューアル博物館の内容別比率



2006年度リニューアル博物館一覧表

●増改築

東京大空襲・戦災資料センター 〔東京都江東区〕2007年3月 開館5周年を機に、3階建ての建物を増築し、展示スペースを約2倍に拡張してリニューアルオープン。東京大空襲の展示の充実とともに、新たに「戦争と子どもたち」をテーマにした資料室を設置。国民学校で使われていた教科書や防空訓練、学童疎開など、子どもたちの生活を紹介する写真やパネルなどを展示。当時の庶民の暮らしを再現したコーナーでは、空襲時に明かりが漏れないよう黒い布で覆った電灯や、爆風を防ぐため窓ガラスを紙やテープで貼った様子を再現。また、これまで展示してきた資料を整理し、寄贈者の被災体験などを記した解説文も新たに設置。さらに、修学旅行生への対応をより充実させるために、会議室を拡張
横浜人形の家 〔神奈川県横浜市〕2006年4月 「横浜発・世界の人形ふれあいクルーズ」をコンセプトに1年間の増床・全面改修工事を終え、リニューアルオープン。床面積を増やし、ゆとりある展示空間と照明を多く用いて明るい印象に生まれ変わる。展示室は港町・横浜にちなみ、航海をイメージした整備を図り、2階展示室「世界探検クルーズ」、3階展示室「人形探検クルーズ」、4階「あかいくつ劇場」で構成される。また、新たに温度調節機能を持つ人形の保管庫も整備。公園通り歩道から直接上がれる外部階段や4階までの直通エレベーター、1階にはカフェやミュージアムショップを新設するとともに、大型観光バス駐車場機能など、来館者の利便性とバリアフリーを考慮した施設整備を実施
能登原子力センター 〔石川県志賀町〕2006年4月 増改築工事を実施し、リニューアルオープン。展示室を拡張し、最新の映像技術による展示や、参加体験型の展示を数多く設置することで、原子力発電の仕組みをよりわかりやすく紹介。あともすラボ、たんけんステーション、しらべるサロンといった展示ゾーンで構成。たんけんステーションには、映像とCGを組み合わせ、原子炉内での核分裂の仕組みを疑似体験することができる「バーチャルあともすゲーム」を設置。核分裂の仕組みのほか、放射線監視や核燃料サイクルといった関心の高い内容を取り上げるなど、展示内容を一新
福知山市佐藤太清記念美術館 〔京都府福知山市〕2007年1月 約1年におよぶ改修工事を終えてリニューアルオープン。美術館の南側に収蔵庫を増築。収蔵庫面積は約3倍の185㎡に拡張。調湿機能を持った内装材などを使用し、約200点の収蔵が可能となった。併せて、空調設備の更新や、大型絵画を運搬できるエレベーターも設置。また、展示室の改修工事も実施。2階展示室の一角に、日本画家・佐藤太清のアトリエを再現。実際に使われていた絵筆やはけ、岩絵の具やニカワなどを展示

●新施設増設

旭川市旭山動物園 〔北海道旭川市〕2006年4月・2006年7月・2006年8月 2006年4月、入園者の増加を受け、混雑解消とサービス向上のため、東門と管理事務所棟を移転新築。新東門にはカフェテリア方式のレストランや売店も併設。案内看板の表記に英語と韓国語、中国語も加える。そのほか、園内に観光情報センターを新設。園内の案内に加え、旭川市内の観光スポット情報を提供。2006年7月、第一こども牧場に併設して「第二こども牧場」がオープン。ヤギのアスレチックやヒツジの遊び場、馬小屋などを整備し、柵越しで動物に触れることもできる。2006年8月には、新施設「チンパンジーの森」がオープン。寝室と冬場の展示室などを設けた「ちんぱんじー館」と野外飼育場「チンパンジーの森」で構成。「チンパンジーの森」には、模造樹木や遊具に取り囲まれる地上5メートルの場所に、空中トンネル「スカイブリッジ」を設置し、高い木の上で活動するチンパンジーの生態を間近に観察が可能
--

＜表－1＞地域別リニューアル博物館数と比率

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
18館 (8.9%)	13館 (6.4%)	57館 (28.1%)	43館 (21.2%)	34館 (16.7%)	15館 (7.4%)	11館 (5.4%)	12館 (5.9%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べると、近畿（26館→34館／13.2%→16.7%）の増加が顕著です。また、北海道、関東、四国で若干増加しています。一方、九州・沖縄（19館→12館／9.6%→5.9%）のみ、減少が見られました。

＜表－2＞館種別リニューアル博物館数と比率

人 文	美 術	自然史	理 工	動水植
73館 (36.0%)	31館 (15.3%)	28館 (13.8%)	32館 (15.8%)	39館 (19.2%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、自然史（20館→28館／10.2%→13.8%）、動水植（32館→39館／16.2%→19.2%）の増加が目立っています。特に、動水植は、過去5年間の傾向を見てみても館数、比率が年々増加しており、全国各地で動物園や水族館がリニューアルしていることがわかります。一方、人文（85館→73館／43.1%→36.0%）は、館数、比率ともに昨年度より減少しました。

＜表－3＞設立主体別リニューアル博物館数と比率

国	都道府県	市・区	町・村	法 人	個人その他
14館 (6.9%)	31館 (15.3%)	68館 (33.5%)	13館 (6.4%)	68館 (33.5%)	9館 (4.4%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、法人（57館→68館／28.9%→33.5%）、都道府県（27館→31館／13.7%→15.3%）が館数、比率ともに増加しました。一方、町・村（20館→13館／10.2%→6.4%）の減少が目立っています。これは2006年度開設博物館数の町・村の減少と同様に、市町村合併による町・村数の大幅な減少が大きく影響したと考えることができます。

＜表－4＞開設年代別リニューアル博物館数と比率

～1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
18館 (8.9%)	20館 (9.9%)	29館 (14.3%)	48館 (23.6%)	64館 (31.5%)	24館 (11.8%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、1950年代以前（15館→18館／7.6%→8.9%）、1960年代（15館→20館／7.6%→9.9%）、1970年代（24館→29館／12.2%→14.3%）が館数、比率ともに増加しました。1980年代と1990年代を合わせると、112館（55.1%）と半数以上を占めています。

釧路市動物園 〔北海道釧路市〕2006年8月 北海道ゾーンに、「クマタカ舎」がオープン。絶滅危惧種に指定されているクマタカを、自然に近い形で観察することができる。神経質なクマタカの性質に配慮し、観覧側を人の背丈ほどの自然木で覆い、観察用の小窓を設置するなど、クマタカと観察者の双方に配慮
釧路市立美術館 〔北海道釧路市〕2006年9月 同館の付属施設として釧路市出身の彫刻家・米坂ヒデノリ氏の作品を展示する「米坂ヒデノリ彫刻館（トッカー美術館）」が、同氏の母校である釧路市立寿小学校内にオープン。同小学校2階の空き教室をメインに、米坂氏より寄贈された木彫「争いの発端」など10点を展示。黒板やロッカーなどを残し、教室の雰囲気を生かした展示室を整備
札幌市円山動物園 〔北海道札幌市〕2006年4月 園内の中央に位置するサル山の横に休憩施設「展望レストハウス」がオープン。ガラスで隔てた建物の外側に給餌スペースを設置し、同スペースとサル山をつなぐつり橋を2基整備。ニホンザルがつり橋を渡ったり、餌を食べる様子を間近に観察することができる。休憩スペースとなる「展望ゾーン」では、サル山全体を展望することが可能。そのほか、靴を脱いで上がり、子どもが寝転んだり、ハンギングチェアやハンモックで遊びながら、サルの行動を間近に見ることができる「ゆったりゾーン」や、ニホンザルの行動を、アスレチックなどの遊具を介して体験できる「子ザルゾーン」、乳幼児と母親が一緒に休憩でき、絵本の読み聞かせができる「赤ちゃんザルゾーン」を設置。また、ソーラーパネルと縦型風車を設置するなど、環境に配慮した施設整備を図る
のぼりべつクマ牧場 〔北海道登別市〕2006年4月 子グマ牧場の大幅改修を実施。泳ぐ、登る、探すをキーワードに構成された新子グマ牧場は、子グマたちの多様な行動を引き出す構造で整備。渓流をイメージした川を配置し、川に放たれた魚を追いかける姿や、組んだ丸太を器用によじ登る姿などが観察でき、さらに、より間近で観察できるように、子グマが牧場の外に出る強化ガラスのトンネルを設置。また、壁を低くし、一部に強化ガラスを使用するなど、車いすや小さな子どもでも観察しやすいように配慮
中泊町博物館 〔青森県中泊町〕2006年7月 旧今泉小学校校舎を活用して「中泊町博物館今泉分館」がオープン。2005年3月の閉校後、中泊町博物館の収蔵庫として利用されてきたが、空き教室を展示室として整備。町民から寄贈された農具や漁具、民具、記録写真など約7,000点をテーマごとに分類し、収蔵展示を展開。また、糸車や蒸（こも）編みなど昔の民具や農具を体験できるコーナーも設置。同館2階では、町の基幹産業である農業や林業の変遷のほか、昔の学校や衣食住の様子も紹介
野口英世記念館 〔福島県猪苗代町〕2006年12月 研修・収蔵施設「野口英世至誠館」がオープン。140人収容可能な多目的研修室や、これまで館外に分散して保管してきた資料を保管する収蔵庫を整備。また、雨天時の休憩場所としても提供
さかなと森の観察園 〔栃木県日光市〕2006年6月 園内に「おさかな情報館」を新設。構造物から内外装材すべてに国産材を使用し、日光国立公園の自然環境に配慮するとともに国産材の利用拡大を図る。館内には展示室のほか、セミナー室を設置。世界の海と水産業に関する情報や森と海との関係などを、パネルや剥製標本などを展示し、わかりやすく紹介
伊香保おもちゃと人形 自動車博物館 〔群馬県吉岡町〕2006年5月・2006年7月 2006年5月、「ワインとチョコレート博物館」と「リス園」がオープン。「ワインとチョコレート博物館」では1950年代のフランスワイン製造工場や当時のワインボトル、ワイン樽製作風景を再現。「リス園」では、シマリス100匹のほか、キタリスやバナナリスが展示。2006年7月には、カフェがオープン

上野の森美術館【東京都台東区】2006年8月
別館として、上野の森美術館「ギャラリー」がオープン。地肌を残した天然木集成材の柱を軸に染も木材を使用した建築。エントランスは2階までガラス張りの吹き抜けで、開放感のあるファサードとなっている。1階部分はギャラリーとして利用され、2階部分には日本美術協会が移転。3階部分には、これまで本館2階にあったアートスクールが入り、絵画教室などを集約。また、1階ギャラリーでは、小規模の展覧会のみならず、棟続きの本館で開催される展覧会との連動など、フレキシブルな展示スペースとして活用
東京都恩賜上野動物園【東京都台東区】2006年4月・2006年5月
2006年4月、新クマ舎「クマたちの丘」がオープン。「冬眠ブース」と「野外展示場」で構成。冬眠ブースは、温度調節機能を備える、第1の部屋、第2の部屋、冬眠部屋の3部屋続きの構造になっており、部屋ごとに室温を徐々に下げ、野生に近い環境を整え、ツキノワグマの冬眠の展示を実現。冬眠の様子は小さなぞき窓やカメラ映像を通じて観察。野外展示場は熱帯、温帯、寒帯のゾーンにわかれ、マレーグマ、ツキノワグマ、ヒグマを展示。野生の姿を再現するため、クマと小動物と一緒に展示する「複合展示」を採用。2006年5月には、ハダカテナズミの展示施設を新設。アクリル樹脂製の巣箱14個を管で結び、一方の壁を透明にすることで、食料庫や寝室、トイレなどに分かれる巣の様子を観察できるように整備
日本民藝館【東京都目黒区】2006年6月
開館70周年記念事業として、倉庫として利用してきた「旧柳家悦邸」を修復し、一般公開。本館と道路を隔てた向かいに建つ旧柳邸は、栃木県から移築した長屋門に隣接して、1936年に柳自身の設計により建設。書斎には当時の机やいすが残っており、修復された居間には人間国宝の木工家・黒田辰秋に依頼して作った大テーブルや、英国のアンティーク家具などが配置され、当時の雰囲気を再現
小田原文学館【神奈川県小田原市】2006年4月
敷地内に、小田原を拠点に創作を続けた作家・尾崎一雄の書斎を移築。尾崎邸で書斎として使われていた八畳と四畳半の和室、書庫や縁側などを移築するとともに、かつて邸宅で実際に使われていた瓦を葺くなど、外観も当時を再現。書斎には、机や筆記用具、直筆の掛け軸、基盤、たばこなどの遺品を展示し、縁側から見学できるように整備
箱根町立箱根関所・資料館【神奈川県箱根町】2007年3月
1999年度から始められた箱根関所の完全復元整備事業が完了。発掘調査や石垣の修復、大番所・上番休息所や足輕番所、両御門などの建物を復元。また、江戸口・京口の千人溜りや矢場などの構造物の修復を実施。さらに、周辺環境整備として、電線類の地中化や杉並木の保全を行い、全面公開
横浜市立金沢動物園【神奈川県横浜市】2006年4月・2006年11月
2006年11月、「ほのほの広場」がオープン。既存エリアの一部を改修し約2,000㎡の敷地に、ポニー、ヤギ、ヒツジに触れたり給餌体験ができる飼育展示施設を開設。2006年4月には、オセアニア区のカンガルーの運動場内に観覧デッキを増設。観覧通路から運動場内に入り込むように設置されたデッキ付近に餌を置き、間近にカンガルーを観察できるように整備。また、「いきもの発見広場」内に「かなざわカブトシの森」をオープン。屋外に張られたネットの中でカブトシをはじめとする昆虫を観察したり、触れることができ、解説パネルも設置
越前和紙の里・紙の文化博物館【福井県越前市】2006年4月
展示収蔵庫を増築。旧今立町が着手した展示収蔵庫の建設を、越前市が引き継ぎ工事を実施。天井を高くし、世界最大の手漉し和紙「平成大紙」を常設展示。全国の和紙、およそ1,000点を収蔵し、越前和紙の作品や金型などの展示スペース、また研究室を整備
鎌倉彫記念館【長野県佐久市】2006年7月
佐久市出身で鎌倉彫伝統工芸士の木内翠岳氏より、作品の寄贈を受け、リニューアルオープン。鎌倉彫記念館は木内氏の「活動50年」を機に建設され、約40点の作品と合わせて市に寄贈。卒寿を迎えた木内氏が作品の散逸防止と、記念館の充実を図るため、静岡県沼津市の私設美術館を封鎖し、同館の作品100点を寄贈した。これを受け、市では展示替えとともに、記念館の一部を改修し市民の作品展にも活用できるギャラリーを新設
国営木曽三川公園センター　138タワーパーク【岐阜県海津市】2006年4月
「もくもくパラダイス」がオープン。「野遊びの森」「ひょうたんの池」「竹林」「実のなる丘」などのほか、「自然体験施設」を設置。同施設では、さまざまな体験活動や自然とのふれあい・学びをサポート。作業や展示、ミーティングができる多目的のスペースと、図書コーナー等を設置
INAXライブミュージアム【愛知県常滑市】2006年10月
新施設「土・どろんこ館」などがオープンし、INAXライブミュージアムとしてグランドオープン。「土・どろんこ館」には企画展展示室を設置。また100個の小さな引き出しの中に、いろいろな視点から見た土の姿が詰め込まれている「百土箱」を常設展示。グランドオープンに合わせて「窯のある広場・資料館」には、三重県の伊賀工場で稼働していたトンネル窯を移設
名古屋大学博物館【愛知県名古屋市】2006年4月
博物館野外観察園を一般公開。約40年間、名古屋大学の研究や教育用の植物を栽培するために利用され、300種類を超える植物が植えられている。同館が主催する野外観察会なども実施
鳥羽みなとまち文学館【三重県鳥羽市】2006年8月
江戸川乱歩の作品世界を紹介した新資料館「幻影城」がオープン。「蔵好き」だった乱歩にちなみ、文学館の中庭にある土蔵を改修して設置。乱歩の作品「屋根裏の散歩者」「人でなしの恋」「虫」といった蔵を題材とした作品に登場するシーンを再現した模型や、乱歩の書籍を自由に閲覧できる書籍コーナーなどを設置
滋賀県立安土城考古博物館【滋賀県安土町】2006年11月
登録有形文化財「旧安土巡査駐在所」の保存修理が完了し、建物内部の一般公開を再開。シロアリの被害による破損が目立つようになったため、1階床下の土台と床組材の取替え及び、防蟻処理を施した。また、屋根の葺き替えや、壁の塗り替えも実施。明治初期に建設され、洋風建築の意匠や技法が随所に見られる「旧安土巡査駐在所」は、明治以降の近代化の歴史を伝える歴史的建造物として、1998年に登録有形文化財に指定される
高麗美術館【京都府京都市】2006年5月
付属施設「高麗美術館研究所」の建て替え工事が終了。建物の老朽化に伴い新築された同施設は、鉄筋コンクリート2階建てで、延床面積は約308㎡。耐震・耐火構造となっている。1階に図書室、2階には美術文化財収蔵室などを配置。新設された図書室には、朝鮮半島の考古学や美術工芸に関する図書など約27,000冊を収蔵
和泉市久保徳記念美術館【大阪府和泉市】2006年12月
研究棟を新設。和泉市久保徳記念美術館の充実と市民の文化向上を目的に設立され、同館の運営を行ってきた久保徳記念文化財団より、クロード・モネ作「睡蓮」やジョルジュ・ルオー作「女びエロ」などの美術品・茶道具160件をはじめ、研究図書、研究棟などの寄贈を受ける

鳥取県立山陰海岸学習館【鳥取県岩美町】2006年4月
山陰海岸自然科学館が「鳥取県立博物館付属　山陰海岸学習館」としてリニューアルオープン。浦富海岸周辺の魚類を飼育し、山陰海岸の動植物の標本などを常設展示してきたが、岩美町から鳥取県立博物館に管理が移されたのを機に、展示を中心とした施設から、学芸員が常駐する研究・調査施設に転換
笠岡市立カボタゴニ博物館【岡山県笠岡市】2006年7月
「自然観察公園」が完成。隣接する海岸と山すそを併せた、約3,000㎡。地元中学生やボランティアの協力のもと、3年がかりで整備。山すそ「自然観察の森」には、日本古来の樹木、約80種を植樹。海岸沿いの「海浜植物園」には、県のレッドデータブックで絶滅危惧種のアゲシノムなど、約40種を植えた。絶滅が懸念されるカボタゴニの生息環境について、海だけでなく海浜植物や背後地の樹木と合わせて、総合的に学べる場として整備
高梁市武家屋敷館（旧折井家・旧埴原家）【岡山県高梁市】2006年4月
「埴原山田山田方谷資料室」がオープン。武家屋敷として一般公開されている旧埴原家の一角を整備し、山田方谷に関する文書などを展示する資料室としてオープン。方谷愛用の硯やさい配、手紙、掛け軸などの複製や古文書など、約20点を展示
野崎家塩業歴史館【岡山県倉敷市】2006年7月
敷地内に、昔ながらの製塩方法を学ぶ「塩づくり体験館」がオープン。野崎家旧宅の雰囲気に合わせて、外観は漆喰の白壁で、木造平屋建てで約60㎡。館内には製塩用のコンロを配置。1999年より同館で取り組んでいる「塩づくり教室」を開催する施設として新設。また、同年12月には、旧野崎家住宅が、国の重要文化財に指定
イサム・ノグチ庭園美術館【香川県高松市】2006年11月
解体されて運びこまれた明治時代の米蔵を復元。生前、蔵の寄贈を受けた彫刻家・イサム・ノグチは、蔵の建設を望んでおり、その遺志を実現。米蔵は木造2階建て、延床面積約225㎡。書物や資料の保管などに活用
二十四の瞳映画村【香川県小豆島町】2006年11月
新施設「キネマの庵」をオープン。木造平屋建てで延べ289㎡の館内には、1950年代の映画予告編5本が流れ、当時のポスターや台本などの資料を展示。また「給食セツ」などを提供するカフェも併設
世界食文化博物館【愛媛県今治市】2006年5月
日本食研（株）の愛媛本社敷地内に、新施設「宮殿食文化博物館」をオープン。館内では「キングズ・バンケット」と題し、ベルベデーロ宮殿が建設された18世紀に花開いた宮廷の食文化を紹介。また、「スパイス・アيرانズ」では、香辛料を求めて始まったともいわれる大航海時代の様子を、グラフィックパネルで紹介するほか、当時の代表的な香辛料を展示。「宮殿食文化博物館」のほか、「世界食文化博物館」や「日本食研　歴史館」、「日本食研　商品展示館」、「世界ハムソーセージ博物館」などで構成
出島和蘭館館跡【長崎県長崎市】2006年4月
長崎市が進める第二期復元事業に伴い、新たに整備された建造物5棟が完成し、リニューアルオープン。今回復元されたのは「カピタン部屋」「乙名部屋」「拝礼筆者蘭人部屋」「三番蔵」「水門」。出島で最も大きな建物である「カピタン部屋」は、1階に出島の歴史や生活に関する展示、2階にオランダ商館長の生活の様子を復元展示。「乙名部屋」では、出島において日本側の貿易事務や管理を担当していた出島乙名の仕事を紹介。「拝礼筆者蘭人部屋」では蘭学を紹介。同事業は1996年より進められている出島の復元事業の一環
●館内全面改装
札幌市資料館【北海道札幌市】2006年8月・2006年11月
2006年11月、国の登録有形文化財である同館の館内改修工事が完了し、全面リニューアルオープン。文化資料室の移転を機に、旧札幌控訴院である同館に、建設当時の設計図をもとに刑事法廷を復元。被告人席や傍聴人席などのいすや机も、当時のものと同じ仕様を採用し、2009年より実施される、裁判員制度に向けて模擬裁判を開くなど、司法教育の場として利用。さらに、司法や法についての理解を深める展示コーナー「法と司法の展示室」や「街づくりの歴史展示室」などを新設。また、札幌市出身の漫画家・おおば比呂司の作品を展示している「おおば比呂司記念室」も作品を入れ替えて再開。全面リニューアルオープンに先駆けて、2006年8月には旧店接客を展望室「大通交流ギャラリー」として開放し、さらに、会議や集会、イベントなどに利用可能な「研修室」を新たに設置
サンピアザ水族館【北海道札幌市】2006年4月
館内改修工事を実施。床や階段、通路などにカーペットを敷き、壁の色を明るく色に塗り替えるなど、イメージを一新。既存の大型水槽には人口岩などを配し、海底や川底の雰囲気演出。また、水槽側面のポケットから魚に直接触れることができる「ふれあい水槽」を新設
定山溪郷土博物館【北海道札幌市】2006年4月
市立定山溪小学校の開校100周年と、定山溪の名を広めた僧侶・美泉定山の生誕200年を記念して、リニューアルを実施。定山溪鉄道の資料をはじめ、農耕具、ラジオなどの生活用品や教科書、机などの学用品、法被や食器などの旅館関係資料など1,000点を超える資料を住民有志と札幌国際大学「博物館研究会」の学生の協力のもと、テーマごとに見やすく展示を刷新。今後も資料整理を継続し、収蔵資料のデータベース化にも取り組む方針
歴史公園えさし藤原の郷【岩手県奥州市】2006年4月
番組宣伝をメインとする「放送ふれあい館」を全面改装し、「ロケ資料館」としてリニューアルオープン。館内は「民放・映画・CM」「NHKドラマ」「シアター」「ドラマセット」の4つのゾーンで構成。「藤原の郷」で撮影された約70作品のテレビ番組や映画の台本、小道具、資料などの展示や、主な作品のロケのエピソード、ロケが行われた園内地図をパネルで紹介
月山あさひ博物村　アマゾン自然館【山形県鶴岡市】2006年4月
開館15周年を機に、展示物や内装を一新して「アマゾン自然館」をリニューアルオープン。世界各地に生息する6種類のヘビを新たに常設展示したほか、動物の剥製などを配置し、館内に熱帯アジアの密林を再現。熱帯園の動物や昆虫の生態を広く紹介
とりっくあーとびあ那須【栃木県那須町】2006年7月
開館15周年を機に、「トリックアートの館」をリニューアルオープン。ペンションを利用した建物の特性を生かして、建物全体を「魔法がかけられた屋敷」に見立て、全面改修を実施。館内は「謎のリビングルーム」「滑稽なバスルーム」「凶暴なペット小屋」など、7つの部屋で構成
伊勢半本店紅ミュージアム【東京都港区】2006年9月
伊勢半本店紅資料館が全面改装して、「伊勢半本店　紅ミュージアム」としてリニューアルオープン。「資料室」と「サロン」の2つのゾーンで構成。資料室は、紅を見る、知る、深める」場として、紅の歴史や文化、製造方法などを紹介。伊勢半本店180年の歩みのなかで収集した500点に及ぶ化粧道具や資料などの所蔵品の中から、約50点を展示。サロンは、紅に触れる、味わう、楽しむ」場として設置。紅を使ったメーカー体験や、紅花茶や食紅を使った和菓子を試飲食できる。また、サロン内には、ショップも設置

東京国立博物館【東京都台東区】2006年10月・2006年12月・2007年1月 2006年10月、国指定重要文化財「表慶館」が、完成した1908年（明治41年）以来初めての全面的な修復工事を実施。展示室壁面やドア、ドーム屋根など、当時の塗装に色を戻し、窓から外光を取り入れられるように改修するなど、開館当初の面影を再現。併せて、スロープを設置するなど、バリアフリー化も図る。2007年1月には本館1階17室に文化財保存に関する展示コーナー「文化財を守る～保存と修理～」を開設。保存修理の意義を解説するパネルを展示、作品や保存に関する道具などの実物展示、さらに実際の修理工程や輸送など保存修理に関する映像で保存修復を紹介。また、2006年12月から2007年1月にかけて本館1階および2階の展示ケースメンテナンスを実施
新潟県政記念館【新潟県新潟市】2006年11月 国の重要文化財にも指定されている「新潟県政記念館」の修復工事が完了し、リニューアルオープン。八角尖塔や外壁を忠実に復元修理したほか、議場など内部の修復も実施。また、不同沈下対策も施した。同館は1883年に新潟県議会議事堂として建設され、1932年まで使われた。明治初期の府県議会開設期から現存する唯一の建物で、1969年に国の重要文化財に指定。木造2階一部3階建てで、延床面積1,208㎡。館内には当時の議場が再現され、議事堂建築に関する資料のほか、明治時代にロンドンから取り寄せられた大時計などを展示
安曇野アートヒルズミュージアム【長野県安曇野市】2006年4月 安曇野ガラスの丘アートヒルズが前身である、同施設が開館15周年を迎えたのを機に、リニューアルオープン。エミール・ガレの作品49点を展示するスペースを設け、ガラス作品を制作する工房も拡大
高島市新旭水鳥観察センター【滋賀県高島市】2006年10月 様々な体験を通じて、鳥も楽しめる空間を目指しリニューアルオープン。水鳥の観察室を改修し、新たに20倍の望遠鏡を設置。映像コーナーには本格的な音響設備と座席を備えたほか、木造船の復元などワークショップを行う施設「奥琵琶湖ウダウンポートセンター」、地域のアーティストの紹介や自然に関する発表の場として「ギルドギャラリー-高島」、カフェコーナーなども新設。また、これまでは渡り鳥が飛来する10月から翌年の3月末までだった開館期間を通年に変更
ゲンゼ博物苑【京都府綾部市】2006年8月 創業110年周年事業としてリニューアル。これまでの「絹蔵」「靴下蔵」「莫大小（メリヤス）蔵」の3施設をそれぞれ、「歴史蔵」「ファッション蔵」「新機能蔵」に改め、通路幅を拡張し、展示を見やすくしたほか、最新の事業や商品なども紹介。2～6分程度の短い映像で、展示などを解説するディスプレイを各所に設置
堺市船松人権歴史館【大阪府堺市】2006年4月 2階から7階へフロアへ移転し、リニューアルオープン。展示構成も、くらし・しごと・歴史・啓発・特別展示にリニューアル。また、阪田三吉記念室を新設し、ゆかりの品や映像などにより、その業績を顕彰
石見銀山資料館【島根県大田市】2007年3月 館内の全面改修を経て、リニューアルオープン。明治時代に建てられた遼摩郡役所の面影を残す同資料館の敷地は、江戸時代の代官所跡で、国の史跡にも指定されている。今回のリニューアルでは、外観はそのままに、床や壁など建物内部を改修。また、鉱山、鉱石、生活文化、歴史資料をテーマにした常設展示室と、企画展示室を設置。新たに加えた石見銀山稼方絵巻などの歴史資料のほか、鉱山で使われた道具や鉱石など約300点を展示
アトムサイエンス館【岡山県鏡野町】2007年3月 館内を全面改修し、リニューアルオープン。体験型アトラクションを中心に、天然ガスやウランなどのエネルギーの歴史を学ぶトンネルのほか、火力発電と原子力発電の仕組みを紹介
大原美術館【岡山県倉敷市】2007年3月 分館が、開館以来初めての大規模改修を経てリニューアルオープン。屋根の防水や柱の耐震補強を行い、展示室も温湿度を一定に保つよう空調設備を整備。展示スペースは壁を白からグレーに変え、照明や採光を見直すなどして、鑑賞しやすい展示空間にリニューアル

●展示室増設

小樽水族館【北海道小樽市】2007年3月 コツメカワウソの水槽が完成。メイン水槽とサブ水槽が、空中トンネル「コツメブリッジ」と水中トンネルの2本で連結。「コツメブリッジ」からはコツメカワウソの肉球や足跡を見ることができ、水中トンネルでは回転しながらすばやく泳ぐ様子を観察できるように整備
青森市森林博物館【青森県青森市】2006年9月 2006年1月に閉館した青森市歴史民俗展示館「稽古館」の所蔵品を常設展示するコーナーを設置。同館1階の部屋を改造し、「昔の生活と遊び」をテーマにした展示スペースを開設。昭和初期の県内の民家の雰囲気を再現し、昔の農具や食器、玩具など収蔵品約200点を展示。また、2階には企画展スペースも設置
宇都宮城址公園 清明館【栃木県宇都宮市】2007年3月 宇都宮城址公園のオープンに合わせ、市の歴史紹介の場としてリニューアル。同館に「歴史展示室」を設置し、市庁舎の「文化財研究展示室」に展示されていた文化財や宇都宮城に関する資料などを展示
足利工業大学総合研究センター「風と光のミニミニ博物館」【栃木県足利市】2006年6月 世界の珍しい日時計を集めた「日時計の部屋」を新設。同大学名誉教授が過去10年間に集めた、世界10カ国の日時計のレプリカ約50点をはじめ、自身が各地で撮影した約2万枚のカットの中から厳選した日時計の写真や関連書籍などを展示。また、博物館前庭には、実物の日時計8基も設置
佐倉草ぶえの丘【千葉県佐倉市】2006年4月 「バラ園」が新たにオープン。「バラの博物館」をコンセプトに、鈴木省三コーナー、世界の原種、バラの歴史園、イエローローズ・コーナーなど、テーマ別に分かれた13のコーナーに、全国的にも珍しい野生バラとオールドローズを中心に約800種、1,800株のバラを植栽。また、同園敷地内の研修棟内には「バラ園資料室」が併設され、ミスターローズと呼ばれた故・鈴木省三関連資料などを展示。資料室内には同氏の書斎が再現され、展示ケースには植物採集や観察の時に使った愛用品を展示
千葉市動物公園【千葉県千葉市】2007年3月 レッサーパンダ舎の室内展示場を増築して新たにオープン。同舎は展示場と寝室3部屋で構成。展示場は子どもが生まれた時に親子展示ができるように二分割できる構造。寝室には冷暖房機を完備することにより、レッサーパンダの故郷、中国・四川省の気候にあわせた室内温度（25度以下）に保つことができ、木製遊具や休憩台なども設置。また、来園者が快適に見学できるように観客通路の見直しも図る

しながわ水族館【東京都品川区】2006年7月・2006年12月 2006年7月、開館15周年を記念して「アザラシ館」を新設オープン。1階部分は、直径約11mの円型水槽の中に直径約6mの円柱状の観察スペース（水中ホール）を設置。水中ホールへとつながるアクリル製水中トンネルを通ることで、アザラシが泳ぎ回る様子を360度の角度から観覧できる。2階部分は、アザラシが岩の間から顔を覗かせている様子や地上でくつろいでいる様子など、アザラシの行動を間近に観察。2006年12月には、展示水槽「世界の大河から」をリニューアル。雷の音や稲光を加えたスコールや太陽の演出により、熱帯雨林の臨場感を再現。また、森の精霊があらわれ、森の役割や大切さを語る
町立湯河原美術館【神奈川県湯河原町】2006年10月 湯河原ゆかりの美術館は「平松礼二館」と「常設館」を併設する、「町立湯河原美術館」としてリニューアルオープン。現代日本画壇の主軸として活躍する平松礼二氏の作品を展示する「平松礼二館」を新たに開設。館内は、日本画家・竹内栖鳳や洋画家・安井曾太郎など、同町ゆかりの画家の作品を中心に展示する「常設館」と「平松礼二館」、企画展示室、ミュージアムショップなどで構成
角俣三郎美術館【石川県七尾市】2006年4月 「角俣三郎美術館」に併設して、「辻口博啓美術館ル・ミュゼ・ドゥ・アッシュ」がオープン。美術展示室とカフェ、ショップで構成。アメ細工と発光ダイオードを組み合わせた作品など、砂糖の芸術品を展示
軽井沢絵本の森美術館【長野県軽井沢町】2006年4月・2006年7月 2006年4月、第1展示室館内に「木葉井悦子のアトリエ」がオープン。企画展・特別展として紹介してきた、絵本作家・木葉井悦子の作品を、常設展示にて紹介。2006年7月には「吉田新一文庫」を開設。欧米の絵本・児童文学研究の第一人者であり、また、軽井沢本の森美術館の名誉館長でもある吉田新一氏の資料を、同氏の書斎をイメージした文庫で展示。また、館内のティールームが「緑蔭茶論」としてリニューアルオープン
坂木信ふさと歴史館【長野県坂城町】2006年12月 和算に関する資料を集めた展示室を開設。天幕社の算学の複製や、江戸期の和算の教科書など7点を展示。またパネルで和算の歴史などを紹介
信州新町化石博物館【長野県信州新町】2006年11月 恐竜模型展示室がオープン。塩尻市の模型販売会社の経営者より寄贈された、恐竜の復元模型や骨格模型など約200点を展示
産業技術記念館（トヨタテクノミュージアム）【愛知県名古屋市】2007年1月 「蒸気機関」（スイス・スルザー社製）の展示室を新設。日本の産業技術の発展、変遷を繊維機械や自動車を通して紹介する同館は、その元となる動力の発展の紹介が不可欠として、19世紀に実際に使われていた蒸気機関を、10年以上にわたり探し、2003年、シュツェルトガルト近郊で発見。整備して、動態展示を実現。1898年製造の同機は、長さ14m、幅7m、高さ3mで、出力は500馬力。直径約4.7mのフライホイールが、9本のロープとともに回転する。同館での展示は安全と環境を考慮し、モーターによる擬似運転とし、付属装置として発電機を設置
豊橋総合動植物公園【愛知県豊橋市】2006年4月 豊橋市制100周年の一環として、「オーストラリア園」を整備。1,302㎡の飼育場に、カンガルー科のケナガワララーなど4種28頭（羽）を混合展示。展示スペースの中央に設置された、高さ2m延長55mの観覧デッキから間近に観察することができるよう整備
日本モンキーセンター【愛知県犬山市】2006年9月 新アトラクション「モンキースクランブル」が完成。フクロテナガザルがぶら下がり移動する高さ15m、全長200mの巨大うねい「ビッグロープ&エコドーム」と、ジェフロイクニザルが園路をまたいで空中を移動する平均地上高6m、全長100mのつり橋「モンキースカイウェイ」などで構成。併せて、「ビクターセンター」「モンキーパレイ」「ヒヒの城」も施設改修を実施
大阪市立自然史博物館【大阪府大阪市】2007年3月 新たに第5展示室がオープン。「生き物のくらし」をテーマに、生き物が自然の中でどのように暮らしているのかを楽しむ紹介。「さまざまな環境を行き来する生き物」「さらに遠くへ旅をする生き物」「つながって成り立つ自然」「人のくらしとの関わり」の4つのコーナーにより構成。動物フィギュアが里山を模したステージを動き回ったり、タヌキやモクズガニになった気分を味わえたり、体験型シミュレーションゲームなどを取り入れ、楽しく学べるように工夫
豊岡市立コウノトリ文化館（コウノピア）【兵庫県豊岡市】2007年3月 新たに展示室を増設。隣接地に、物販や情報機能を兼ねた「コウノトリ本舗」がオープンしたを受けて、豊岡市立コウノトリ文化館内の物販コーナーを展示コーナーとして更新。コウノトリの野生復帰事業、豊岡盆地の自然や文化、そして地域づくりや自然保護などの取り組みについて紹介
中内功記念館【兵庫県神戸市】2006年9月 展示室を大幅に拡充し、リニューアルオープン。これまでラウンジやビデオブースとして利用してきたスペースを、創設者である中内氏の足跡をたどる展示コーナーとして改装。年表や語録を展示したコーナーや、経済人、教育人としての功績をビジュアルに再現したコーナー、さらに晩年を過ごした執務室を再現したコーナーで構成
ラインの館【兵庫県神戸市】2006年4月 改修工事を経てリニューアルオープン。1階の喫茶コーナーを展示室や休憩室に改装。また、外壁を1915年の建設当時の色に塗装し、フローリングや室内の壁紙を張替えた。さらに、1階の床下にコンクリートを流し入れるなど耐震補強工事も実施
浜田市世界こども美術館【島根県浜田市】2006年4月 郷土ゆかりの作家の作品を展示する常設展示室を新設。同館3館の映像コンピューター室を改装。大作などの展示にも耐えられるように壁の補強も実施。世界80カ国、約5,000点の児童作品を所蔵する同館だが、郷土作品の展示を望む声と、子どもたちが郷土作品に触れ、誇りを親しみをもてるようにと設置
二川郷土館【島根県益田市】2006年12月 二川民芸館が展示室の拡充など経て、「二川郷土館」としてリニューアルオープン。昔の農協倉庫を利用した約150㎡の展示室には、山仕事で使われた木挽道具など、300点あまりが並ぶ。また、新たに「郷土史コーナー」を設置し、史跡・二川や石見地方に関するものも展示
城島健司ベースボール記念館【長崎県佐世保市】2006年7月 展示スペースを15倍に増床し、リニューアルオープン。自主トレーニングで使用していた1室を、展示スペースとして改装。新たに、ミシアトル・マリナーズの公式ユニホームや、メジャーリーグでの初ホームランと初勝利の記念ボールを展示
都城市立美術館【宮崎県都城市】2006年4月 子どもたちの作品を常設展示するコーナー、「はくらのギャラリー」をオープン。子どもたちが美術館に親しみを持ち、足を運ぶきっかけにしたいと企画。1階展示室に隣接する、長さ約12mの通路部分に、照明設備などを配備し設置。美術教師でつくる「都北地区造形教育研究会」の推薦をもとに、園児から中学生までの作品を展示

●展示室改装

岩見沢郷土科学館【北海道岩見沢市】2006年11月
同館1階に「遺跡出土品・化石展示室」を新設。市内13カ所の遺跡から発掘された石斧や矢じりなどの石器、原型に近い状態に復元した縄文土器などを、遺跡ごとに展示。約40,000点にも及ぶ収蔵品を整理し、約3,500点に絞って見やすく展示。同室内には化石類のコーナーも設置
帯広市おびひろ動物園【北海道帯広市】2006年4月
冬季閉園期間を利用して、老朽化したフラミンゴ舎と放養場の改築工事を実施。舎内からつながる放養場は、キツネや鳥など、外敵の侵入を防ぐため鉄網で囲み、場内には、見学者通路の新設やベンチを配置し、間近で餌やりなどを観察することができる
小平町郷土資料館【北海道小平町】2006年4月
1979年の開館以来、初めてとなるリニューアルを実施。年表や解説文の製作、見やすい高さに展示資料を配置するなど、分りやすい展示に変更。展示の充実を図るとともに、館内には新たに休憩スペースも設置
オホーツク流水館【北海道網走市】2006年4月
第2展示室「マルチハイビジョンシアター」をリニューアルオープン。スクリーンを300インチの大画面に拡張するとともに映像機器の入れ替えなどを実施。2004年から2年間かけてハイビジョン撮影したオホーツクの四季など、新たな映像に更新
川湯エコミュージアムセンター【北海道弟子屈町】2006年4月
映写装置を使用したシアターをプラズマディスプレイ型の映像展示にリニューアル。パソコンと接続し、いろいろな映像の上映、パワーポイントなどを用いたプレゼンテーションなどにも利用できるシステムを導入。さらに、職員が撮影した映像も上映可能にすることで、タイムリーな情報提供を実現。そのほか、入口側に事務室の場所を配置変更し、入館者対応のサービスの向上を目指す。また、空気循環ファンを設置し、暖房効率の向上などを図る。2007年度には展示改修を実施する方針
釧路市湿原展望台【北海道釧路市】2006年4月
2006年度までの2カ年計画で進められている改修工事の2005年度分が完了し、リニューアルオープン。1階の「水の湿原」ジオラマには、青と緑の淡い光を発する発光ダイオードを設置し、より幻想的な湿原のイメージに一新。加えてセンサーが反応し、大きなスクリーンに川の流れなどの映像が立体的に映し出され、幻想的な雰囲気演出。2階展示室には65インチの大型画面を設置。タッチパネル方式で、湿原の四季などを映像で紹介。このほかにもタンチョウなどを映し出す画面が設置されるなど、より視覚に訴える展示に改修。また、トイレをオストメイト対応にするなど、湿原観光の案内拠点としての役割の強化を図る
様似郷土館【北海道様似町】2006年8月
同館が所蔵する等じゅ院（「じゅ」はさんずいに樹の旁）の住職記などの古文書が国の重要文化財に指定されたのを受け、等じゅ院のコーナーを新設。併せて、館内天井部分などを改修し、館内の模様替えも実施。等じゅ院のコーナーを中心とした博物館としてリニューアルオープン
市立室蘭水族館【北海道室蘭市】2006年4月
青、黄、オレンジ、白など幻想的でカラフルなクラゲ（カラー・ジュリー）を展示する「クラゲ水槽」を新設。既存の大型水槽には、海の中をイメージした色合いの照明を活用したライトアップで演出を図り、また、9基の水槽には、岩肌を模した発砲スチロール製の壁を設置するなどのリニューアルを実施。そのほか、2階の子どもの遊び場には、カーペットを敷き、遊具などを配置
北海道開拓記念館【北海道札幌市】2007年3月
常設展示場に「さわる化石コーナー」を新設。北海道で発見された本物のステラー海牛（海生は乳類：ジュゴンの仲間）の肋骨化石や、シベリアで発見されたマンモス象のキバと下あごの化石（複製）を展示。ステラー海牛の骨の化石とクジラの骨の重さの違いを実際に持ち上げて比べることができる
八戸市視聴覚センター・児童科学館【青森県八戸市】2006年11月
プラネタリウムをリニューアルオープン。プラネタリウムのアニメーションカットには、コンピュータを導入し、これまで使用していたスライドよりも画面の切り替えがスムーズになるなど、より美しい画面で投影を実現
岩手大学ミュージアム【岩手県盛岡市】2006年4月・2007年1月
展示内容を大幅にリニューアル。内容を充実させたほか、見やすい工夫も図る。第3展示室「家畜のいろいろと解剖模型」のコーナーには、野生動物のカモシカ、アザラシ、ワニの剥製標本を新たに展示。また、2007年1月にはミュージアム本館の照明修繕工事を実施
盛岡市子ども科学館【岩手県盛岡市】2006年10月
体験型展示を取り入れた新展示物3点を導入。新展示「光のガーデン」は、壁に描かれているイラストにホースから出る、青、緑、赤の光を使い、組み合わせによる様々な色の変化を実験。「ボールコースターキャンパス」は、キャンパスに見立てた壁面のパネルにコースを取り付け、ボールが転がる様子を観察。「風の体験」では、ホースの先から吹き出す風を利用して、スチロール球の様々な動きを観察し、流体がつくり出す現象を体験。これまでの見学型の展示から、科学技術の原理や生活の中の科学を、五感を使い身近に体験できる展示に方向転換
秋田県男鹿水族館（GAO）【秋田県男鹿市】2007年3月
旧シロクマ舎を改修した「ホッキョクグマ広場」がリニューアルオープン。新展示室北側の壁にはホッキョクグマと同じ目線の高さにアクリルパネルの窓が新設されたほか、餌を取るところを間近に観察できる「熊の手観察窓」を設置。また、西側には高床の観察室が設置され、足元には床下に潜ったホッキョクグマを観察できるように円形窓も整備。さらに、ホッキョクグマのストレスにも配慮し、日本海を見渡せる格子窓も設置
つくばエキスポセンター【茨城県つくば市】2006年4月・2007年1月
2006年4月、1985年の科学万博から利用してきたプラネタリウムを全面リニューアル。最新鋭の光学式プラネタリウムと全天周デジタル映像システムの2つのプログラムを統合させた新世代統合型プラネタリウムシステム「コニカミノルタ ジェミニスターⅢ」を導入。また、リクライニングシートの採用や座席間の通路の幅を広くとり、ゆとりある配置とスムーズな移動が配慮され、車椅子スペースも設置。2007年1月には、「科学万博〜つくば85メモリアルコーナー」がオープン。「科学万博〜つくば85」「バイオテクノロジー」「ニューメディアと映像技術」「ロボット技術」「プラネタリウム技術」の5つのコーナーに分け、当時の最先端技術や会場の様子などを紹介
日立シビックセンター科学館【茨城県日立市】2006年7月
プラネタリウム「天球劇場」をリニューアルオープン。外装工事に併せて、投影機をフィルム型からデジタル投影システムに変更。上映番組も惑星を太陽から近い順に紹介する「太陽系の旅」など、新たな番組を上映。また、「サタデー・プラネ」と称した、天文をテーマとした講座も開設

利根川ダム資料館【群馬県前橋市】2006年4月・2007年3月
2006年4月、「ダムのことをもっとわかりやすく」というコンセプトでリニューアル。相俣ダムで実際に稼動していた「ダム放流制御処理装置」の実物展示と、実際に水が流れ、ダムの働きがわかる「ダムの模型」を展示。2007年3月には、リアルタイムダムコーナーでCCTV画像（藤原・相俣・箇原ダム及び周辺のライブ画像）をタッチパネルにより自分で選択できるように変更。「ダムの模型」に水利用の説明機能を追加。さらに、シアター回廊ギャラリーの展示スペースを拡張
向井千秋記念子ども科学館【群馬県館林市】2006年4月
2004年3月に廃止された民営「大西飛行場」の歴史を伝えるコーナーを設置。14年前、同飛行場を運営していた大西勇一氏が、自らの手で完成させた軽飛行機「スバルプレーン」を、千葉県芝山町の航空科学博物館に寄贈。これまで同館が保管してきたが、「大西飛行場」にゆかりのある群馬県の「向井千秋記念子ども科学館」に、永久貸与することとなり、「スバルプレーン」と関連資料を常設展示するコーナーを設置
埼玉県立川の博物館【埼玉県寄居町】2006年4月
2006年4月、埼玉県立博物館施設の再編に伴い、「さいたま川の博物館」が「埼玉県立川の博物館」としてリニューアルオープン。「荒川と人々のくらしとの関わり」をメインテーマとする第1展示室をリニューアル。第1展示室2階の導線壁面の展示「荒川の表情」を展示ギャラリーとして改修。荒川流域に生息する動植物をテーマに、写真パネルや標本を展示。また、これまでの展示装置を撤去し、水の力、水の不思議、身近な科学などをテーマに、体験型の実験空間に改修。さらに、第1展示室のフューチャートーンネルは、外光を導線に取り込み美しい荒川の河川敷を臨めるようにしたほか、新たに情報発信コーナーを設置。アドベンチャーシアターには3D映像を導入。3D専用メガネを着用して、迫力ある映像を演出。なお、さいたま川の博物館と埼玉県立自然史博物館が組織統合され、「埼玉県立自然と川の博物館」として新たにスタート
埼玉県立歴史と民俗の博物館【埼玉県さいたま市】2006年4月
埼玉県立博物館施設の再編に伴い、埼玉県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを統合し、「埼玉における人々のくらしと文化」をテーマに、歴史・民俗・美術を総合的に扱う人文系総合博物館「埼玉県立歴史と民俗の博物館」としてリニューアルオープン。常設展示室の改装とともに、民俗展示室と美術展示室を新設。民俗展示室は、埼玉県の地理的環境や歴史的環境を踏まえつつ、県内を「山のくらし」「里のくらし」「都市のくらし」の3つの民俗伝承領域に大別し、産業や信仰、さらには祭りや行事・儀礼などを紹介。美術展示室は、「博物館の中の小さな美術館」として、季節ごとにテーマを変え、様々な美の世界を展示。さらに、資料の虫歯害対策や保存環境の整備のため、収蔵庫の収蔵棚改修や空調設備設置工事も実施
埼玉県立さきたま史跡の博物館【埼玉県行田市】2006年4月
埼玉県立博物館施設の再編に伴い、「埼玉県立さきたま資料館」が「埼玉県立さきたま史跡の博物館」としてリニューアルオープン。これまでの民俗展示室を新たに考古資料を中心とした企画展示室として、テーマ展示や特別展示を開催
白浜海洋美術館【千葉県南房総市】2006年10月
展示替えを実施するとともに、展示室をリニューアル。展示品を増やし、照明を充実させたほか、運営に携わる陶芸家の柳善夫氏、佐藤洋子夫妻の作品を展示するスペースを新たに設置
千葉市花の美術館【千葉県千葉市】2006年9月
開館10周年を記念して、1階アトリウムフラワーガーデンと屋上庭園をリニューアル。アトリウムフラワーガーデンは、直線が区画されていた花壇を曲線のレイアウトに変更し、見学路の整備やベンチを増設。屋上庭園には、展望デッキの新設やスロープを設置。リニューアルに併せて、高齢者や車椅子利用者がゆったり鑑賞できる展示空間に改善
荒川知水資料館（AmOA）【東京都北区】2006年4月
2階に「流域模型」「都市河川・荒川（浸水シミュレーション）」などを新たに設置して、リニューアルオープン。「流域模型」は流域面積2,940㎢、全長173kmの荒川流域を2万5000分の1の地形模型で再現。備え付けモニターには河口から源流までの空撮映像を放映。「浸水シミュレーション」では、荒川で洪水が起こったときに、流域の町がどのようにに浸水するのか、赤羽や浅草など20地点のシミュレーション映像を放映
NTTインターコミュニケーション・センター（ICC）【東京都新宿区】2006年6月
新コンセプト「Art×Communication=Open！」のもと、リニューアルオープン。これまで企画展示を行っていた5階部分を常設展示を行う「オープンスペース」に変更し、無料開放。「アート&テクノロジー ゾーン」「研究開発コーナー」「ネットワーク ゾーン」「アーカイブ ゾーン」で構成されるオープン・スペースでは、年度を通して展示される作品を無料鑑賞できる
エッソ品川アクアスタジアム【東京都港区】2006年4月
展示水槽「おさかな博士・みうらっちのマリンアートミュージアム」を新設。6つの覗きこみ水槽を設置し、季節ごとにテーマを設けて、小さな海の生き物を紹介
科学技術館【東京都千代田区】2006年4月・2006年7月・2006年12月
2006年4月、4階E室のNEDO展示室を「NEDO Future Scope～未来のチカラがみえてくる～」としてリニューアルオープン。展示室は「100年前の予言」と3つの未来ゾーン「ロボットゾーン」「エネルギーゾーン」「フューチャーゾーン」で構成。「見る・聞く・触れる」のほかに「楽しむ」のコンセプトを加え、ナノテクノロジーやロボット、エネルギー、環境など多彩な分野の技術が実現する「夢」を体験できる展示室として改修。2階の日立グループ提供の展示ブースは、「Nature Contact」としてリニューアルオープン。手の影を使って操作することのできる長さ4メートルの情報テーブルに、地球上の様々な自然環境と、そこに住む動物達の暮らしを再現し、双方向性を有したITによるユビキタス社会を体感。2006年7月に、3階の中外製薬株式会社提供の展示ブース「北の丸博士のバイオのくすり研究室」がオープン。「バイオテクノロジーとくすり」とがん」をテーマに、細胞やゲノムを利用したバイオテクノロジーによる薬づくりについて、映像展示やグラフィックなどでわかりやすく解説。2006年12月には、4階C室の鉄鋼展示室を「鉄の丸公園1丁目」としてリニューアルオープン。子どもたちの身近に存在する公園をイメージした展示空間に一新。「ピークルシアター」「ボンネットリフティング」「パイプすべり台」などの体験型展示の導入や、鉄鋼に関する理解を深めてもらうための「ワークショップコーナー」を展示室の中央に新設
葛飾区郷土と天文の博物館【東京都葛飾区】2007年3月
機器の老朽化に伴い、プラネタリウムをリニューアルオープン。レンズを使って星を映し出す光学式と、CGで立体的に宇宙を表現するデジタル式を融合した新プラネタリウムシステム「ジェミニスター3」を導入。さらに、米航空宇宙局（NASA）とアメリカ自然史博物館が共同開発したソフト「デジタル・ユニバース」を国内で初めて搭載。現代天文学で解明されている様々な観測記録や情報などがデータベース化されており、様々な宇宙の姿をデジタル映像で投影
葛飾柴又寅さん記念館【東京都葛飾区】2006年11月
映像設備などを充実させてリニューアルオープン。大画面スクリーンを整備し、撮影の舞台裏映像など新たな映像を上映。また、寅さんが名調子で物品を売るシーンを集めて画面に映す「啖阿売コーナー」を新たに設置

国立科学博物館【東京都台東区】2006年5月・2006年7月・2006年11月・2006年12月 2006年12月、愛・地球博で人気を博した全球型映像システム「地球の部屋」を移設し、「THEATER360」（シアター・サン・ロク・マル）として常設展示を開始。地球の100万分の1の大きさの球体（直径128m）の内壁すべてがスクリーンになっており、球体中央の橋の上から、コンピュータグラフィックが描く全方位の映像を鑑賞。また、愛・地球博で上映されていた作品のほか、新たに2本のオリジナル映像を制作して上映。また、2006年5月、科学技術の偉人たちを紹介する新常設展示を公開。「日本の科学者技術者展シリーズ」などの企画展で紹介してきた科学者・技術者の肖像（レリーフ）を展示。今後も同展の開催に合わせて、肖像を製作・公開していく予定。2006年7月、本館地下1階のミュージアムショップがリニューアルオープン。2006年11月には、本館地下1階に席数40席を有するカフェをオープン サンシャイン国際水族館【東京都豊島区】2006年4月 サング礁のラグーンを再現した国内最大級の水槽「サンシャイン サング礁」が完成。自然浄化作用を利用した濾過技術「ナチュラルシステム」を採用し、本物のサングの展示と周辺の生態系を再現。水槽は幅11m、奥行き6m、水深1.7mで、ウミキノコやミドリシサングなど33種360点のサングや、26種2430点の魚などを展示 昭和館【東京都千代田区】2006年7月 常設展示室を改修して、リニューアルオープン。「銃後の備えと空襲」のコーナーは、昭和18年頃の民家を再現し、戦時中の防空の工夫をゲーム感覚で体験する映像装置を導入するなど、パソコンを使った体験型展示を設置。「体験ひろば」には、「バーチャルこねあに？」を新設。昔懐かしい道具を視覚的に紹介。また、リニューアルに併せて、実物資料や写真、パネル、映像なども一新 多摩六都科学館【東京都西東京市】2007年3月 展示室3「生活の科学」に新展示「ガスタービン」を設置。映像を操作しながら、クイズに答え、ジェットエンジンの仕組み知り、ガスタービンを組み立てる展示装置を導入 地下鉄博物館【東京都江戸川区】2006年12月 常設展示ゾーン「地下鉄をつくる」コーナーに、地下鉄のトンネルをつくる工事に使用した「シールドマシン・カッターディスク」の実物を設置。2008年に開業した東京メトロ副都心線の建設の際、新宿三丁目から東新宿間のシールドトンネル掘削工事に実際に使用したものをモニュメントとして展示 秋父宮記念スポーツ博物館【東京都新宿区】2006年4月 常設展示のオリンピックコーナーをリニューアル。五輪カラーの5つのサブコーナー、「古代オリンピック」「近代オリンピックの誕生」「近代オリンピックの歩み」「日本で開催されたオリンピック」「栄光の証」を設置。また、そのほかの常設展示コーナーも資料の展示替えを実施するとともに、レクリエーション関連の資料展示コーナーも設置 東京都多摩動物公園【東京都日野市】2006年12月・2007年3月 2006年12月、イノシシ舎をリニューアル。運動場の拡張とともに、近くで観察できるよう、観覧通路を新設。また、イノシシが好きな泥遊びをする「ぬた場」も設置。2007年3月には、タヌキ山がリニューアルオープン。巣穴や岩陰、食事風景が見られるよう工夫した餌場など、より自然に近いかたちでタヌキの行動を観察することができるように整備 東京都葛西臨海水族園【東京都江戸川区】2007年3月 東京の海エリア「伊豆七島の手3」水槽をリニューアルオープン。壁面にあった据えつけタイプの大きな擬岩を撤去し、砂底に設置するタイプの擬岩に変更。より安定したサンゴイソギンチャクの飼育ができるように工夫 東京都井の頭自然文化園【東京都武蔵野市】2007年2月 「水生生物館」がリニューアルオープン。子どもの視線の高さに配慮して、館内の床を高く改修。また、スロープを設置するなど、車椅子利用者にも配慮。併せて、解説用の照明板も交換。館外부는老朽化が進んだ部分を修復するとともに、階段になっていた非常口にスロープを設置するなど、バリアフリー化を図る 2002FIFAワールドカップ記念 日本サッカーミュージアム(11+)【東京都文京区】2006年10月 「日本サッカーのすべてがわかるミュージアム」としてリニューアルオープン。「Jリーグの各クラブを紹介するコーナーなどが新設されたほか、日本サッカー史上の歴史的な出来事を振り返る展示などの充実を図る。また、日本代表のロッカールームを再現したスペースなども一新 日本科学未来館【東京都江東区】2006年4月・2006年6月・2006年11月・2006年12月・2007年2月・2007年3月 2006年6月、5階「地球環境とフロンティア」内の「加速器で探る素粒子と宇宙」を展示拡充。霧箱という実験装置を設置し、目に見えない様々な粒子を観察。2006年11月には、5階同エリア内の「すばる望遠鏡のめざす宇宙」が展示リニューアル。研究成果やプロジェクトの最新情報の紹介のほか、観測や研究の疑似体験ができるシミュレーションゲームを設置。2006年12月、5階「生命の科学と人間」内にある「医療」コーナーが「ともに進める医療」をテーマに全面リニューアル。展示は「診る、治す、意見発信」の3つの切り口で展開し、最新の医療技術の紹介や未来の医療問題を疑似体験。2007年2月、プラネタリウム投影機MEGASTAR-II cosmosの新コンテンツ「偶然の惑星」を公開。2006年夏、冥王星を惑星の定義から外すという出来事に対し、「惑星」とは何かについて改めて考える内容を提供。2007年3月、5階「地球環境とフロンティア」内には、映像展示により地球環境の仕組みと環境問題の本質を伝える新展示「地球環境を考える」を設置。また、5階VRシアターも大幅リニューアル。国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトが制作した最新の観測やシミュレーションを一面面で立体映像投影する三面画立体映像投影システムを導入。そのほか、「催事ゾーン」を拡張し、「企画展示ゾーン」としてリニューアル。2つに分割して別々に利用することもできるように整備。3階サイエンスライブラリでは、機器改修を実施。併せて、展示イベントなども様々な用途に使用できるようにレイアウトも変更。2006年4月には、ミュージアムショップとレストランがリニューアルオープン 神奈川県立相模原公園【神奈川県相模原市】2006年4月 園内の大温室「かながわグリーンハウス」をリニューアルオープン。たたずんで花を観察したり、植物由来の香りを楽しむなど、約700種類の植物で五感を磨けるように演出。温室内は「トロピカルガーデン」、「カクタス（サボテン）ガーデン」、「グリーンギャラリー」などで構成 京急油壺マリンパーク【神奈川県三浦市】2006年12月 ペンギンの増加に伴い、展示施設「ペンギン島」を拡張し、リニューアルオープン。キタイワトビペンギンの人工繁殖において成功をおさめている同園では、手狭になったペンギン展示施設を153㎡に拡張し、人工で育てているヒナを観察できる保育室や、ペンギンふれで観察できるスペースを新設 新江ノ島水族館【神奈川県藤沢市】2007年3月 「化学合成生態系水槽」を設置し、深海コーナーをリニューアル。海洋研究開発機構（JAMSTEC）との共同研究により、深海生物の長期飼育、及び展示のための「化学合成生態系水槽」を開発。深海（水深約1,500m）と同じ水温4℃に保たれた水槽には、「熱水噴射域」から最高約60℃の水が噴出する仕組みになっている。これにより、化学合成生態系のゴエモンコシオリエビやサガミハオリムシなどの生物の生息環境を再現し展示	東芝科学館【神奈川県川崎市】2006年6月・2006年11月 2006年11月、開館45周年を機に、「デジタル映像コーナー」、「デジタル家電コーナー」、「照明コーナー」をリニューアルオープン。デジタル映像コーナーは、次世代プロセッサ「Cell」を搭載した映像システムにより、画面上でメイクができる「デジタルかがみ」などを設置。デジタル家電コーナーでは、ホームITシステム「フェミニティ」などを紹介。照明コーナーには、「あかりの部屋」を新設。360度旋回して様々な場所に映像を映し出す「アクティビジョン」を設置し、室内全体に月や動物を映し出し、音、匂い、風を同時に再現。2006年6月から、東芝の創業者の業績などを紹介する「創業者コーナー」と、東芝が生み出した様々な製品を紹介する「一号機のがたりコーナー」を先行オープン 三菱みなとみらい技術館【神奈川県横浜市の】2006年9月 主要展示ゾーンのひとつ、「身近な技術の知恵と工夫ゾーン」の全面改装を実施し、「技術探検ゾーン」としてリニューアルオープン。様々な技術に応用されている「油圧」「滑車」「発電機」などのメカニズムを学習する体験装置や「H-II Aロケット」「新交通システム車両」の工場組立て模型などを通して、「ものづくり」を原点から学べる参加・体験型の展示空間に改装。また、ビデオライブラリ、図書コーナーを拡充。「技術探検ゾーン」の開設により、2002年度から「環境」「エネルギー」「宇宙」「海洋」「交通・輸送」と順次行われてきた主要ゾーンのリニューアルがすべて完了 横浜こども科学館【神奈川県横浜市の】2007年3月 プラネタリウム「宇宙劇場」をリニューアルオープン。全天デジタル映像システムと光学式プラネタリウムの良さを兼ね備えた、ハイブリッドプラネタリウムを導入。また、星座などを映すビデオプロジェクターを6台に増設。直径23mのドーム型スクリーンに迫力ある星空の映像を投影 横浜・八景島 シーパラダイス【神奈川県横浜市の】2006年7月 アクアミュージアム「ペンギン水槽」の観覧コーナーをリニューアル。ペンギンの愛嬌のある姿を映像で紹介するほか、ペンギンの人工育すうの紹介やペンギンに関する豆知識コーナーを設置。また、海の映像館「アクアシアター」では、新作ハイビジョンソフトの上映をスタート 柏崎刈羽原子力発電所 サービスホール【新潟県柏崎市の】2006年4月 展示館内を展示リニューアル。「ふるさと探訪・発電所建設のあゆみ」コーナー、「原子燃料サイクルの現状・発電所DATA・BOX」コーナー及び、「キッズハウス」を新設 川上善兵衛資料館【新潟県上越市の】2006年4月 これまでの農業関係資料を中心としてきた展示から、ワイン造りに関する資料館へとリニューアル。展示品数は約4倍に増やし、ブドウの品種改良の仕組みを紹介したパネルや、川上が交流した全国各地のワイン醸造技術者を紹介するコーナーも新設 フォッサマグナミュージアム【新潟県糸魚川市の】2006年7月 フォッサマグナの発見や、ナウマン象研究で知られるドイツ人地質学者エドムント・ナウマン博士の資料を展示する「ナウマン博士の部屋」を新設。これまで特別展に使用していた展示室を改装し設置。博士の親族より寄贈された、ゆかりの品を展示 富山県自然博物館【ねいの里】【富山県富山市】2007年3月 「人と生き物の共生」をテーマにリニューアルオープン。約1年におよぶ改修では、実際にクマが住んでいたミズナラを館内に設置し、周辺にツキノワグマやイノシシの剥製を展示。野生動物を農地に近づけないための防除グッズや、動物の生態を紹介するパネルなども設置 富山市ファミリーパーク【富山県富山市】2007年3月 ハクビシン舎、バードハウスをリニューアル。行動展示「はらはらハクビシン」には、やぐらを組みロープを渡すなどし、ハクビシンの身体能力の高さを観察できるようにリニューアル。またバードハウス内にはオオタカを間近で観察できるコーナー、猛禽展示「はばたけ オオタカ」を新設。オオタカとノスリという里山を代表する2種の猛禽類を展示。動物ガイドなどを通して、鷹匠の技術に応用した訓練の模様や、飼育下繁殖から放鳥・野生復帰へ向けた取り組みを紹介 アリス館志賀【石川県志賀町の】2006年4月 参加型の展示を新設。原子力発電の制御の仕組みを紹介し、原子力の安全性について学ぶことができる「不思議なバイポオルガム」は、アリスのオルガン演奏に合わせて、来館者が太鼓をたたき、参加型の展示となっている。また、原子力発電の必要性やメリットを分かりやすく説明する「まほうの絵本」を新設。原子力の開発に貢献した世界の科学者を紹介 伝統工芸村「ゆのくにの森」【石川県小松市の】2006年5月・2006年7月 2008年の開村20周年に向け改修を実施。2006年5月、「伝統美術の館」および総合売店の「商家の館」を改修。「伝統美術の館」では展示品をこれまでの3分の1に抑え、テーマごとに配置。また、九谷焼の歴史を紹介する映像も設置。2006年7月には、レストラン館内に「世界の色絵陶磁器ギャラリー」を、村内にデザインアートギャラリーや授乳室も新設 のとじま臨海公園水族館【石川県七尾市の】2007年3月 日本最大級のトンネル水槽「イルカたちの楽園」がオープン。従来の水槽を改修しリニューアル。カマイルカやフンボルトペンギン、能登半島近海の魚たちが泳ぐ。水槽の水面と目前に広がる七尾の海の海面の高さを一緒にすることで、水槽と海とが一体化した迫力を持つ。また、ペンギンの巣穴をのぞける観察窓や水中を底まで見通す箱メガネなど、8つの仕掛けを設置 鯖江市資料館【福井県鯖江市の】2007年2月 鯖江市ゆかりの浄瑠璃・歌舞伎作者、近松門左衛門を紹介する「近松の部屋」が、同資料館2階にオープン。近松の業績を記したパネルや浄瑠璃本などを展示。「近松ものがたり」と題した15分の映像も閲覧可能 山梨県笛吹川フルーツ公園 山梨フルーツ・ミュージアム【山梨県山梨市の】2006年6月 「くだもの館」がリニューアル。立体白地図上に投影される映像で山梨特産のくだもの産地を紹介する「山梨フルーツ・ランドスケープ」や、クイズや古い、アロマなど遊びを通して山梨のくだものについて楽しく学び、発見することができる「フルーツ・バスケット」を新設 おぶせ中国美術館【長野県小布施町の】2006年7月 展示内容を一新し、リニューアルオープン。同館は、作品の一部を手にとって観ることができるほか、オリジナルとレプリカの比較展示を設置 佐久市子ども未来館【長野県佐久市の】2007年3月 常設展示施設に、「地震体験装置」を導入。同装置では、足元の揺れと映像で地震を疑似体験でき、そのメカニズムを学ぶことができる。マグマと地震の関係、プレートの隆起、活断層、津波発生など、一連の動きを体ごと理解できる 松本市科学博物館【長野県松本市の】2006年4月 新しいプラネタリウム「スーパーメディアグローブ」を導入しリニューアルオープン。プラネタリウム本体の更新とともに、リクライニング式のゆったりとした座席を導入。また、音響機器も一新。四方を160度の角度で映し出せる魚眼レンズとビデオプロジェクターを組み合わせた新システムを採用
--	--

奇石博物館【静岡県富士宮市】2007年1月
博物館入口のホール展示がリニューアル。倉庫に到着した標本が荷解きされ研究室に運び込まれるイメージに展示改装
佐久間電力館【静岡県浜松市】2007年2月
内装の大幅な変更と、水力発電の歴史などを伝える展示物を配置するなどし、リニューアルオープン。電気の科学を体験できる「電気のエネルギーコーナー」など、5つの区画を設けたほか、床には天竜川源流の諏訪湖から遠州灘までを写した衛星写真を設置
昭和の森会館（伊豆近代文学博物館、森林博物館）【静岡県伊豆市】2007年3月
昭和の森会館内の「森林博物館」と「伊豆近代文学博物館」がリニューアル。「森林博物館」は「森の情報館」と改称。天城山の林業の歴史を紹介したパネル展示や、ボタンを押すと天城に生息する野鳥の鳴き声を聞ける展示を設置。「伊豆近代文学博物館」は展示ケースを一新し、伊豆にゆかりの深い川端康成、梶井基次郎ら文豪120人の資料を展示
東海大学海洋科学博物館【静岡県静岡市】2006年5月
魚の生態が学べる小部屋「チビっ子たんけんたい」がオープン。不思議な生態を持つ魚として、水中で面白い寝方をするアオブダイとアミメハギ、はさみやひげを使って音を出すテッポウエビと伊勢エビを紹介。それだけを模型にしてハンズオン展示。また「水族館の秘密の隠れ家」をイメージしており、入り口は子どもの身長に合わせ高さ約1m、出口は大人に入ることができる高さに設定
浜岡原子力館【静岡県御前崎市】2007年3月
太陽光発電や風力発電などを紹介する「新エネルギーホール」がリニューアルオープン。直径3mの円形の大画面に映し出されるクイズに答えるなど、参加型の展示に一新
浜松科学館【静岡県浜松市】2007年2月
常設展示場2階の宇宙のコーナーがリニューアル。宇宙に関する映像を見ることができる「JAXAからのメッセージ」と、国際宇宙ステーション（ISS）に関するクイズやゲームができる「ISSのミッション」を新設
小牧市歴史館【愛知県小牧市】2007年3月
内装・展示改修工事を経てリニューアルオープン。新たに3階を情報コーナーとし、DVD映像により小牧の文化財や祭りを紹介
でんきの科学館【愛知県名古屋市】2006年7月
開館20周年を機に展示内容をリニューアル。入口の天井には地球の映像などが映し出される、直径6mの半球形スクリーン「アースウォッチャー」を設置。地球の持つ多様な表情を分かりやすく解説。3階には「地球環境とエネルギー」の展示を設置。また、4階には磁石や模型などの実験器具、環境や科学に関する本が常備してある「学習ひろば」を新設
豊田市防災学習センター【愛知県豊田市】2006年4月
「5つのトライと6つのスタディで防災力を身につけよう!」をテーマに、リニューアルオープン。体験コーナーでは「試して学ぼう!」をテーマに、「暴風体験コーナー」「地震体験コーナー」「消化体験コーナー」「煙脱出体験コーナー」「119通報体験コーナー」の5つのコーナーで構成。臨場感あふれる体験を通して、防災知識を身につけることができる。また、学習コーナーでは「知識を深めよう!」をテーマに、「3次元ハザードマップ」や「防災コミュニケーションステージ」、「ガイダンス映像」などで構成され、実物などの展示やクイズを通して、防災知識を深めることができる
博物館明治村【愛知県大山市】2007年3月
1982年に移築された「高田小熊写真館」の修復が完了。より元の姿に近づけようと復元。うろこ状の屋根やリノリウムの床、外光を調節する屋根に掛ける幕が再現されたほか、三角屋根と倉庫を増築。また、館内には当時の鏡台やスキー板なども配置され、内部までもが、当時の面影をしのばせる雰囲気へ復元
南知多ビーチランド【愛知県美浜町】2007年3月
探検アクアリウム「レグダライブ」がオープン。海洋館展示ホールを改装。海の底に眠る沈没船や海底洞窟、古代遺跡をイメージした展示室として新設。19の水槽に、さんご礁にすむ熱帯魚など25種類、およそ2,000点の生物を展示。探検ツール「ダイビングポイントマップ」を使って、探検気分を味わいながら魚の名前などを知ることができる
鳥羽水族館【三重県鳥羽市】2006年4月・2006年7月・2006年12月・2007年3月
2007年3月、アシカやアザラシたちが暮らす「海獣の王国」ゾーンが17年ぶりの改装を終えリニューアルオープン。観覧通路と同じ高さにアシカやアザラシたちが上陸できる場所を設置し、ガラス1枚を隔てて観察できるようになったほか、床に穴を設け、アザラシが水の穴から顔を出す生態を見られるように整備。また、水中観覧ギャラリには、より大きな曲面ガラスを採用し、擬音もトドが登れる大きさに増設。このほか、2006年4月に貝殻標本、動物フィギュア、書籍等を扱う、ミュージアムショップがオープン。2006年7月には、通路デッキにフライング池とアヒル池がオープン。「人魚の海」ゾーン前には、ジュゴンとアオウミガメの実物大のレプリカと記念撮影ができる、フォトスタジオトリトンがオープン。さらに、2006年12月には「コーラルリーフダイビング」ゾーンにサンゴ育成水槽が完成。同館で繁殖したサンゴの幼体体の展示を開始
日本万国博オーストラリア記念館【三重県四日市市】2006年4月
開館以来、初となる改装工事を経て、リニューアルオープン。愛知万博の人気モニュメント、カモノハシの巨大模型を移設したほか、カモノハシの生態を紹介する映像コーナーを新設。オーストラリアの先住民族アボリジニや、鉱物資源を紹介するパネルも展示。また併せて、館内設備のバリアフリー化も実施
四日市市立博物館【三重県四日市市】2006年12月
四日市市出身の作家・丹羽文雄の業績を紹介する「丹羽文雄記念室」がオープン。博物館3階の常設展示室を改修。東京都武蔵野市にあった丹羽邸の応接間を移築、復元したほか、書籍や自筆の原稿、調度品など約1,000点を展示。足跡をたどる作品やパネル、1977年に受賞した文化勲章、1932年に海軍に召集された際、砲弾で血の付いた軍服、また、趣味にしていたゴルフクラブなども展示され、作家としてだけではなく一面をしのぶことができる
大津市歴史博物館【滋賀県大津市】2007年3月
常設展示室が1990年の開館以来初めての大改修を経て、リニューアルオープン。2006年3月に大津市と合併した旧志賀町の展示コーナーを新設。常設展示の見方を、ナレーションと静止画像によって紹介する。展示導入コーナーを新たに設置したほか、以前より人気の高かった、大津百町・札の辻の町並み模型には、町並み模型の細部写真を中心に関連する資料写真などを織り混ぜたほか、パソコンによって検索できるように整備
京都市学校歴史博物館【京都府京都市】2006年6月・2007年2月
2006年6月、第4展示室「開智教育資料室」がオープン。同博物館の前身である開智小学校で、明治時代から使われていた扇類のほか、閉校時に卒業生が手作りした学校の歴史を表す絵巻物などを展示。また2007年2月には、京都市最古の擬洋風建築物である、旧成徳尋常小学校の講堂玄関を移築。移築完成に伴い、当時の図面など関連資料も展示

京都市青少年科学センター【京都府京都市】2006年4月
新展示「電気と磁気のワンダーランド」を設置。同センターの指導主事が独自に開発。電機を流すと磁界ができることを方位磁石で確かめられる「電流と磁界」や、コイルの近くで磁石を回して電気を作る「発電機」、空き缶や鍋をスピーカーがわりにして音が聞ける「音の電線」などで、様々な実験を体験
京都市平安京創生館【京都府京都市】2006年10月
京都市生涯学習総合センターの設立25周年事業としてリニューアル。展示スペースを拡充し、「平安時代のくらしコーナー」を新設。平安建都1200年を記念して製作された「平安京復元模型」は、従来展示できていなかった部分（北山、鴨川、東山）を新たに展示し、約2倍の面積に拡充。「平安時代のくらしコーナー」には、当時の衣食住にまつわる解説パネルを設置
相国寺承天閣美術館【京都府京都市】2006年7月
展示室内に、金閣寺境内の茶室「夕桂亭」の実物大模型が完成。ナンテンの木を用いた床柱や「萩の遠い棚」など特色ある様式を忠実に再現。展示室中央に完成した模型は、三畳間と二畳敷きの上段の間からなる寄せ棟造りで、眺望を楽しむように三方に作られた中敷居窓や前面のかまどなどを再現
泉屋博古館【京都府京都市】2007年3月
展示室改修工事を経て、リニューアルオープン。併せて、所蔵品約190点をこれまでの用途別展示から、時代別展示へと展示替えを実施。近年、中国での発掘成果を受け、時代別展示を採用
大阪科学技術館【大阪府大阪市】2006年7月
三洋電機ブースをリニューアル。太陽電池モジュールの実物や住宅用太陽光発電システムを展示
大阪市立環境学習センター（生き生き地球館）【大阪府大阪市】2006年4月
館内展示施設の整備工事が完成し、リニューアルオープン。「実践」と「協働」をキーワードに、参加体験型展示をさらに発展させ、「環境学習拠点施設」としての機能充実を図る。新たに、「エコ情報最前線」「なにわエコ路地」「SOSの森」「地球サター」「コミュニケーション広場」の5つのゾーンを設置
大阪市天王寺動物園【大阪府大阪市】2006年9月
アフリカの草原を再現したアフリカサバンナ区に、ライオンやハイエナなどを放し飼いにする「肉食動物ゾーン」が完成。「生態的展示」を採用し、広さ約3,500㎡。隣接地、シマウマやカモノハシなどがいる「草食動物ゾーン」とは、幅7m、深さ5mの溝と弱い電流が流れる電線で仕切られ、肉食動物と草食動物を同じ景色の中で観察することができる。また、観察地点近くには、床暖房が入った岩や、餌の投入口を設けることで、見る人と動物を近づける工夫も図る
交通科学博物館【大阪府大阪市】2007年3月
「列車運行と車両のしくみ」について展示している第4展示室を改装。新たに列車の安全運行の仕組みを学べる模型運転コーナーを開設。1周約20mのレールの上で「500系のぞみ新幹線」や「700系ひかりレールスター」など、実物の35分の1の模型を運転台から制御して走らせ、ブレーキや信号の仕組みを学べる。また、模型の先頭車両に搭載した小型カメラの映像も見ることができ、より実際に近い運転気分を味わえる
国立民族学博物館【大阪府吹田市】2007年3月
常設展示場のイントロダクション展示場がリニューアルオープン。また、ミュージアム・ショップは、全体の面積が拡張され、グッズコーナーが独立し、通路の幅が広くなり、利用しやすく整備
堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）【大阪府堺市】2006年4月
ハンズオン展示などを取り入れた「感じる展示」を特色に、常設展示室がリニューアル。「人権」「環境」「平和」のゾーン、および「企画展示」「図書・ビデオ」のコーナーにより構成。各ゾーンでは、物語展示とハンズオン展示、資料展示と映像情報検索を関連させ、特に子どもたちにわかりやすい展示にリニューアル
城崎マリンワールド【兵庫県豊岡市】2006年4月
新施設「ダイブ」がオープン。海に潜る感覚を味わえる新型水槽「ダイブアドベンチャー」は、直径13mのドーナツ型水槽の中央に見学者を乗せるステージがあり、水量の調節でステージが上下する。水槽内で泳ぐイルカを、海中にいるような感覚で観察することができる。また、イルカと泳げるプール「ドルフィンコブ」は、約80㎡のプールで、イルカにさわれる「ドルフィンタッチ」や、見学者が指示を出して芸をさせる「ドルフィントレーナー」、イルカと一緒に泳ぐ「ドルフィンスイム」が体験できる。このほか、目前の日和山海岸と一体となった人工の岩場「ロックフィールド」も新設。20cmの干満を繰り返し、干満の差でできた潮だまりで、ウニやヒトデに直接触れることができるように整備
兵庫県立大学と自然の博物館【兵庫県三田市】2006年11月
国の特別天然記念物コウノトリを紹介する常設コーナーを新設。くばしから尾羽までの長さが約110cmある、1歳未満の若鳥の剥製を展示。生態についての解説パネル約10点も設置。コウノトリの翼を広げた実物大写真の前で体重計に乗り、コウノトリがいかに大きいか、いかに軽いかを実感できる展示や、野生復帰のためにどのような努力がなされているのかを紹介
奈良国立博物館【奈良県奈良市】2006年8月
本館の平常展示をリニューアル。これまでの蛍光灯のみの照明に最新のスポットライトを増設。また、展示造作でステージを設け、展示作品の周囲から光を照射し、照明を効果的に当てるように整備。また、展示構成の方式も従来の時代別から主題・テーマ別に変更。また、各作品の題箋も大きく見易く改良
串本海中公園センター　水族館【和歌山県串本町】2006年7月・2007年2月
2007年2月、35年ぶりに大水槽を改修。縦横6m、深さ3mのガラス製の大水槽には、地元で捕獲された約50種1,500匹の魚が泳ぐ。コンクリートの岩礁の上には、地元の生きたサンゴ約20種を固定。太陽光に加え、今回新たに設置した照明で十分な光を与え、サンゴの自生に適した環境を整備。また、2006年7月には子ガメの常設展示を開始。常設展示用の水槽を作り、センター内の人工産卵場で生まれたアオウミガメの子を展示
益田市立歴史民俗資料館【島根県益田市】2006年11月
「若返りの間」と名付けた展示室を新設。約58㎡の展示室には明治から昭和初期の民具、約150点が並び、また、展示室内では昭和の名言を流し、ムードを高めるなどの工夫を図る
岡山市デジタルミュージアム【岡山県岡山市】2006年10月
「Eternal Egypt情報ステーション」を新設。32インチ液晶ディスプレイに、日本語をはじめとした10カ国の言語で表示できる対話型のパソコンを搭載。最新のテクノロジーを使い再現された3つの仮想環境「ギザ台地の大ピラミッドとスフィンクス」「ツタンカーメン王墓」「ルクソール神殿」のツアーに参加したり、遺跡を自由に探訪できるバーチャル体験ができる
いろは丸展示館【広島県福山市】2006年12月
古くなり変色したパネルなどを一新。また新たに、坂本竜馬らが乗った海援隊の「いろは丸」が衝突した場面を描いた、巨大パネルを設置

東行記念館〔山口県下関市〕2006年7月
写真資料など展示資料の充実を図り、リニューアルオープン。生涯年表の大パネルが設置され、高杉晋作の名言録が館内の壁面に掲げられた。また、展示物の解説も平易なものに変更
藤原義江記念館（紅葉館）〔山口県下関市〕2006年12月
記念館2階の1室に「漂泊者のアリア記念室」をオープン。藤原義江の生涯を描いた小説「漂泊者のアリア」の原稿や、同小説の作者・古川薫愛用の万年筆など約300点を展示
徳島県子ども科学館〔徳島県板野町〕2007年3月
「モバイルランド」コーナーを新設。携帯電話を使用する際のマナーなどを、カルタ形式で出題
さぬきこどもの国・わくわく児童館〔香川県高松市〕2006年10月
飛行機や航空技術に関する知識を楽しく学ぶことができる科学体験ゾーンに、フライトシミュレーター「フライトくん」を新設。パイロットになった気分です香川県上空をフライトし、飛行機の操縦を模擬体験
愛媛県総合科学博物館〔愛媛県新居浜市〕2007年3月
特別展などで展示された装置を、常設展示として公開。「人間万華鏡」[中は広い?][ボールロケット][逆立ちのかたこ]などが、科学技術館の常設展示に新たに加わった。また、自然館でも標本などを新たに展示
今治市上浦歴史民俗資料館（村上三島記念館）〔愛媛県今治市〕2007年3月
村上三島のアトリエを移設。同館1階の展示室に大阪府高槻市のアトリエを移設。晩年まで創作の場としたアトリエは、およそ20畳あり、大きな窓からは高槻市内を一望できた。忠実に再現されたアトリエには、三島が愛用した硯や筆のほか、本棚や机、いすなどを配置。縦2.6m、横3.6mの巨大な窓からの眺めも、実際にアトリエから見た街並みの写真を飾り再現
高知県立のいち動物公園〔高知県香南市〕2006年5月
チンパンジー展示場をリニューアル。新たに設置された円柱型遊具「ヤムヤムキャッチャー」は、直径1mのアクリル製円柱を3段重ね、最上段に置かれた餌を、竹の枝などを差し込んで落とす仕組み。来園者側にも枝を差し込む穴があり、器用に餌を取るチンパンジーと、一緒に遊ぶことができるように整備
海の中道海洋生態科学館（マリンワールド海の中道）〔福岡県福岡市〕2007年3月
タッチプール「たんけんビーチ」をオープン。「志賀島」の磯、「海の中道」の砂地、「和自」の干潟という、福岡市の特徴的な海岸を再現。約40種類、500匹を展示。実験機器や映像装置を使用した解説も行う。また、車いすのまま磯の体験ができるよう、プールの高さを約70cmと40cmに設置
大牟田市立三池カルタ・歴史資料館〔福岡県大牟田市〕2006年4月
大牟田市歴史資料館は、市立三池カルタ記念館と統合し、「三池カルタ・歴史資料館」としてリニューアルオープン。市歴史資料館の建物が老朽化したことから、両館の統合を決定。カルタ記念館を改装し、歴史資料館を展示
福岡県青少年科学館〔福岡県久留米市〕2006年4月
プラネタリウム「コスモシアター」をリニューアルオープン。「デジタルプロジェクター」を導入し、1,600万画素という高解像度で、映像を映し出す。また、一度に投影できる星の数が最大で12万個と飛躍的に増えたほか、従来は別のプロジェクターを使用していた動画や静止画などの映像を含めた全てを投影
吉野ヶ里歴史公園 吉野ヶ里遺跡展示室〔佐賀県吉野ヶ里町〕2007年3月
吉野ヶ里歴史公園内の、吉野ヶ里遺跡展示室をリニューアル。大画面のテレビを設置し、映像コーナーを充実させたほか、展示ウォールケースを増設し、展示室内に内壁を設置
五島観光歴史資料館〔長崎県五島市〕2006年9月
市町村合併を機に展示内容をリニューアル。同館はこれまで旧福江市の展示物を中心としていたが、合併により五島市となったため、新しい市全体をテーマに再構成。名所や伝統芸能の映像ソフトを充実させ、「触る」「体験する」コーナーを新設。180インチの大型スクリーンを新たに設置
佐世保市亜熱帯動植物園〔長崎県佐世保市〕2006年12月
間伐材を使った環境エンリッチメントを実施。ツキノワグマの放牧場にはウッドデッキを、マントヒヒの展示場にはジャングルジムを設置。さらに、ハクチョウたちが生活する池の小島にリスザルの新獣舎を設置
長崎原爆資料館〔長崎県長崎市〕2007年3月
館内8カ所の展示物をリニューアル。開館から10年が経過し、情報追加の必要性や、解説文の充実を望む声を受けて、2005年度から展示物製作などを進めてきた。今回の改修で、世界の核情勢などを紹介する「核兵器の時代」コーナーには、世界で実施された核実験について追記「放射線による被害」コーナーは、模型を加え、放射線の影響について説明を充実
屋久杉自然館〔鹿児島県久島町〕2007年1月
新展示「いのちの枝」を新設。長さ約4m、最大直径約1m、重さ1.2tの、巨大な縄文杉の枝を展示。2005年に折れた状態で発見され、同館で保存・展示
沖縄子ども未来ゾーン（沖縄子どもの国）〔沖縄県沖縄市〕2006年4月
動物センターをオープン。約230㎡の多目的ホールや約80㎡の展示施設などで構成。動物に関する教育プログラム「ZOOスクール」やふれあい動物園、また、企画展などに利用

●一部改装（展示室以外）

青森県立郷土館〔青森県青森市〕2006年7月
総合的な郷土学習を行うための空間、体験学習室「わくわくたいけんルーム」を整備。小展示コーナー、体験コーナー、インフォメーションカウンター、資料探検コーナー、パソコンコーナーで構成。体験コーナーでは、あそぶ・うごかう・さわる・かんさつする・かんがえる・へんしんする、に分類された約50個の体験ボックスを設置し、ボックス内の資料を使って自由に体験学習を行うことができる。また、インフォメーションカウンターには、体験の補助や調べ学習の手伝いを担う、解説員や学芸員を配置
仙台市博物館〔宮城県仙台市〕2007年2月
レストラン「三の丸」とミュージアムショップをリニューアルオープン。レストランは内装、メニューを一新し、展覧会にちなんだ特別メニューを提供。隣接するミュージアムショップは内装レイアウトや主力商品を菓子からグッズに変更し、「仙台市博物館オリジナルグッズ」を販売。ともにホテル仙台プラザが運営を開始
大田原市ふれあいの丘〔自然観察館〕〔栃木県大田原市〕2006年5月
入館者が自由に資料を見ることができる研修室を新設。昆虫研究家で同館特別指導員・増渕余一氏から寄贈された昆虫図鑑など、昆虫に関する約2,000冊の資料を整備し、入館者に開放

ジョン・レノン・ミュージアム〔埼玉県さいたま市〕2006年6月
ミュージアム・ラウンジがオープン。来館者の憩いの場、ジョン・レノンの調べ学習ができるスペースとして設置。ジョン・レノン本人が書いた物語や音楽活動を伝える作品など約100冊の本と、CDやコンサートのDVDなどを用意
千葉市美術館〔千葉県千葉市〕2006年6月
ミュージアムショップをリニューアル。1階エントランス脇から、7階展示室出口前に移転。新しい店内では、明るく清潔感あふれる白い壁に、商品をディスプレイ。リニューアルオープンに併せて、所蔵作品を使ったオリジナル商品も追加販売
出光美術館〔東京都千代田区〕2006年7月
開館40周年記念事業の一環として、ミュージアムショップをリニューアルオープン。これまで受付カウンターのガラスケースに陳列していたグッズスペースを、ショップとして独立させたスペースに変更。ミュージアムグッズの充実を図るとともに、オリジナル商品の開発にも取り組む
サントリー・登美の丘ワイナリー〔山梨県甲斐市〕2006年4月
第1ホール内に歴史コーナーを新設。ガイドツアーのイントロダクションとして、約80㎡のスペースに、農具や工具、ホスターや写真資料などを展示する展示コーナーと、映像資料を展示する映像コーナーを設置
岐阜県美術館〔岐阜県岐阜市〕2006年4月
ミュージアムショップがリニューアルオープン。同ショップは美術愛好家や企業でつくる岐阜県美術館後援会が運営。今回のリニューアルで、これまでの2倍の約36㎡と拡張。県内出身者や、ゆかりのある作家の一点もの、地場産業の製品など、約220種類を販売
藤村記念館〔岐阜県中津川市〕2006年5月
藤村記念館の敷地内にある、文豪・島崎藤村の祖父父母の隠居所が改修完了。通常は非公開だが、藤村忌や藤村にまつわる記念日などに一般公開。木造2階建ての隠居所は、同記念館がある馬籠に残る唯一の江戸時代の建物として県文化財跡に指定されている。ほとんどが解体時の材料を使って修復
兵庫陶芸美術館〔兵庫県篠山市〕2006年6月
レファレンスルームがオープン。陶芸関係の専門図書を中心に約7,000冊の蔵書があり、事前に申し込みをすれば、無料で閲覧が可能
松伯美術館〔奈良県奈良市〕2006年4月
ミュージアムショップを移設、拡張。玄関ロビーに設置されていたが、中庭に面したロビーに移設
夢二郷土美術館〔岡山県岡山市〕2006年8月
喫茶室「松香」がオープン。夢二の姉の名をとった「松香」は、展示室の一部（26.5㎡）を改装し設置。カウンター、テーブル合わせて12席を設け、夢二が好んだとされる焼き菓子「ガルバルジィ」などを販売
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷〔徳島県徳島市〕2006年4月・2007年3月
2006年4月、劇場改修を経て、リニューアルオープン。屋根しかない屋外舞台のため、ガラス戸などで囲み、景観のよさを残して改修。また、舞台の幅は以前の倍に拡張。2007年3月には、母屋の耐震工事や、展示室の改装を実施。震度6程度の地震にも耐えられるように整備。また、別棟の展示室の内装も一新

●その他

青森県営浅虫水族館〔青森県青森市〕2006年4月
正面玄関の外壁をリニューアル。来館の際に記念撮影の場として利用されている水族館入口の外壁を、これから海の中に入っていくようなブルーを基調とし、ウミガメやラッコ、アシカ、ペンギンなど、同館の代表的な展示生物のシルエットを配置するなど、正面玄関のイメージを一新
毛越寺宝物館〔岩手県平泉町〕2006年5月
平安時代後期に同寺を再興した藤原氏2代基衡の没後850年の記念事業として、宝物館の改修工事を実施。障害者や高齢者の観光客に配慮したバリアフリー化を図る。トイレを増床してオストメイトも利用できる多目的トイレの設けたほか、最大6人乗りのエレベーターを新たに設置
よこはま動物園（ズーラシア）〔神奈川県横浜市〕2006年4月
わんぱくの森ゾーン内に新エリア「自然体験林」がオープン。木漏れ日を感じながら自然を散策できる癒しの森として新たに整備。わんぱくの森は、新たに設置された「自然体験林」のほか、展望広場の「風の丘」、「水鳥の池」、「ころころ広場」などで構成され、ゆったりと散策や休憩するスペースとして活用
藤枝市郷土博物館〔静岡県藤枝市〕2007年2月
館内改修工事を実施し、リニューアルオープン。2007年9月に開館する「藤枝市文学館」が、「藤枝市郷土博物館」を取り囲むアーチ状に建設されたのに伴い、同館との接続工事と館内改修工事を実施。特別展示室やエントランスホールの照明器具を改修し、明るく見やすいように工夫を施した。また、身障者用トイレにオストメイトを設置。「藤枝市文学館」のオープンに合わせ、より利用しやすい施設へとリニューアルを図る
滋賀県立琵琶湖博物館〔滋賀県草津市〕2006年4月
屋根付き屋外施設を新設。来館者の約4割が団体客である同館に、学校など団体客の集集場所や飲食スペースとして活用できる屋根付きの屋外施設を整備。併せて、障害のある人向けの屋根付き駐車場も設置。「うみっこ広場」と名付けられた屋外施設は、広さ約450㎡で、地面には透水性のブロックを敷いた。木製のベンチ100席が設置され、およそ250人を収容できる。また、交流スペース「集う・使う・創る・新空間」がオープン。映像ブースの機器が古くなった情報センターのスペースを利用して設置。この空間では「交流の場としての博物館」の機能充実を図る
石の博物館（ラピス大歩危）〔徳島県三好市〕2006年4月
館内改修工事を経てリニューアルオープン。喫茶コーナーを拡張し、メニューも充実。また観光の情報発信として、情報コーナーも新設
愛媛県美術館分館 郷土美術館（萬翠荘）〔愛媛県松山市〕2007年3月
大規模改修工事を経て、リニューアルオープン。建造から80年あまりが経ち、外壁タイルや天井部の漆喰などに老朽化が目立つようになり、今回の改修工事となった。樹脂を注入し外壁タイルの剝離を補修したり、館内の壁紙を張り替えるなどした。また調度品のシャンデリアを復元し、カーペットやカーテンも取り替えを実施

開設博物館／リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館園の開設（リニュアル）当時のデータに基づいて集計を行いました。また、一覧表については、2007年3月31日時点のデータに基づいて館園名、所在地などを表記しています。

2006年度の開設博物館情報／リニュアル博物館情報について、調査もれ、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。（石川・福留）

Museum in News

このコーナーでは、中央紙・地方紙の各紙面に掲載された博物館の開館やリニューアル、ならびに動向などの記事をダイジェストして、掲載日ごとにお伝えします。
※Museum in Newsはインターネットミュージアム (<http://www.museum.or.jp>) で公開しています。

4月の記事 (2007年)

- 1日 東村山市に「国立ハンセン病資料館」が4月1日開館。高松宮記念ハンセン病資料館を増設し、国立施設として生まれ変わる【毎日新聞】
- 2日 長泉町の「井上靖文学館」が4月1日改装開館。生誕100周年記念事業。代表作に因んで施設の大黒柱にアスナロの木を使用【朝日新聞静岡版】
猪名川町は「多田銀銅山 悠久の館」を4月3日開館。歴史街道モデル事業の一環として整備。地域の「憩いの場」としても活用【産経新聞阪神版】
- 3日 呉市に「海上自衛隊呉史料館 てつのくじら館」が4月5日開館。シンボルは潜水艦あきしおの陸上展示【毎日新聞ひろしま版】
- 5日 さいたま市の埼玉県立歴史と民俗の博物館が「ゆめ・体験ひろば」を4月1日新設。3つの体験学習展示エリアで構成【読売新聞埼玉県南版】
- 6日 奈良市に大和ハウス工業が「石橋信夫記念館」を4月5日開館。最新の省エネ施設に創業者の業績を展示【日本経済新聞近畿経済A版】
- 8日 塩尻市は「平出遺跡ガイダンス棟」を4月7日開館。土器作り等の体験が常時できる史跡見学の拠点として整備【信濃毎日新聞】
- 10日 新宿区に帝国データバンクが「帝国データバンク史料館」を4月3日開館。支社ビル内に設置し、信用調査の役割等を紹介【日本経済新聞】
倉敷市の「大原美術館」は加計学園、高梁学園と「学術教育交流協定」を締結。同美術館を拠点に大学と連携して研究や人材育成に取り組む【読売新聞岡山版】
- 11日 塩尻市は市立博物館や平出博物館等、10館の紹介と事業計画を掲載したガイドを全戸に配布。5月には博物館週間を設定して無料開放等を実施【市民タイムス】
- 12日 和歌山県と広川町は同町に「稲むら火の館」を4月22日開館。浜口梧陵記念館と津波防災教育センターで構成【朝日新聞和歌山版】
- 13日 北海道浜中町と東京都多摩動物公園は自然と野生動植物を守る「パートナーシップ協定」を締結。共同研究・共同事業等の相互協力を図る【毎日新聞】
- 14日 女川町の「マリンパル女川」が4月15日改装開館。港を眺めながら計器類に触れる操船体験室等を新たに整備【河北新報】
「国立科学博物館」は常設展示や特別展示、レストラン等、館内各施設の混雑状況を携帯電話からリアルタイムで知ることができるサービスを開始【毎日新聞】
- 16日 品川区にソニーが「ソニー歴史資料館」を4月2日開館。研修施設を改装活用。製品展示等で同社の60年の歴史を紹介【日本経済新聞】
掛川市に「ねむの木こども美術館」が4月15日開館。ねむの木学園園生の絵画を展示。設計は藤森照信氏が手掛ける【静岡新聞】
- 18日 台東区の国立科学博物館が「日本館」を4月17日新たに開館。日本列島の自然をテーマとし、展示品解説にはITを活用【毎日新聞】
佐伯市平和祈念館「やわらぎ」が4月21日改装開館。展示ケースを増設し、展示内容の再編・充実化を図る【大分合同新聞】
- 20日 「苦小牧市博物館」は人気が高い博物館大学講座の定員制を廃止し、希望者全員の受け入れに変更。道民カレッジと連携し「カレッジ生単位」も取得可能【苦小牧民報】
- 21日 「川崎市市民ミュージアム」が4月21日改装開館。企画展示室の増設や貸しギャラリーを新設。一部施設の無料化も図る【神奈川新聞】
姫路市の「兵庫県立歴史博物館」が4月20日改装開館。展示方法を通史からテーマ別に変更し、触れられる展示を導入【朝日新聞播磨版】
- 23日 鯖江市と福井県遺族連合会は同市に「福井県平和祈念館」を4月10日開館。児童館に併設。戦没者の遺品等を展示【毎日新聞ふくい版】
- 25日 東松島市は「貝層観察館」を4月28日開館。国史跡・里浜貝塚内に整備。貝塚断面を展示し、縄文犬や人骨のレプリカも設置【石巻かほく】
壬生町に「おもちゃのまちバンダイミュージアム」が4月28日開館。エジソンの発明品等を展示してものづくりの楽しさを体感【下野新聞】
富士河口湖町に「山梨宝石博物館・河口湖」が4月25日開館。同町の誘致により甲府市から移転。世界中から収集した原石や工芸品等を展示【産経新聞山梨版】
「鹿児島市立科学館」がプラネタリウムを4月21日リニューアル。投影できる星の数が400倍の約1000万個に増加。映像システムは動画に変更【毎日新聞鹿児島版】
- 26日 大子町は「和紙人形美術館 山岡草堂設館」を4月25日開館。奥久慈茶の里公園内の展示館を改修。和紙人形約100点を紹介【毎日新聞茨城版】
小浜市は「山川登美子記念館」を4月21日開館。生家と遺品の寄贈を機に展示室を設けて、座敷・応接室を含む1階部分を公開【朝日新聞福井版】
長泉町の「富士竹類植物園」が熱帯温室を4月1日新設。熱帯産竹類12属約100種類を植栽。世界最大級の展示【朝日新聞静岡版】
松山市は「坂の上の雲ミュージアム」を4月28日開館。まちづくりの中核施設の役割を担う文学館として機能【愛媛新聞】
- 27日 名古屋市に「戦争と平和の資料館 ピースあいち」が5月4日開館。NPOが14年かけて設立を実現。市民の寄付が後押し【毎日新聞】
鳥羽市は「相差海女文化資料館」を4月26日開館。旧相差出張所を改築。海女の作業風景を等身大のジオラマで再現【毎日新聞三重版】
- 28日 「江差町郷土資料館」が4月27日開館。生涯学習センターから道指定文化財の旧松山爾志郡役所に移転。展示内容も一新【函館新聞】
七尾市に「和倉 昭和博物館とおもちゃ館」が4月28日開館。「金沢おもちゃ博物館」が金沢市から移転。展示スペースは拡大【北陸中日新聞】
池田市は「落語みゅーじあむ」を4月29日開館。建物の外観を大正から昭和初期を思わせるレトロ調に整備。落語会で使う高座も設置【朝日新聞】
「山口市歴史民俗資料館」が4月27日改装開館。開館以来初の改装を実施。同市固有の大内文化を強調した展示を展開【山口新聞】
- 29日 横須賀市は「横須賀美術館」を4月28日開館。県立観音崎公園内に整備。企画展等を開催する「本館」と「谷内六郎館」で構成【東京新聞神奈川版】
下諏訪町の「ハーモ美術館」が4月28日改装開館。円を強調した外観に変更。多目的スペースの新設や庭園の刷新等を図る【長野日報】
- 30日 高岡市は「高岡市鋳物資料館」を4月29日開館。千本格子の家屋、一般住宅、倉庫で構成。釣り鐘、ふいご等の作品や鋳造道具を展示【富山新聞】

5月の記事 (2007年)

- 1日 奈良市に奥村組が「奥村記念館」を4月26日開館。免震技術等を紹介。観光案内・休憩空間も整備し、地域に貢献【建設通信新聞】
- 2日 朝日町埋蔵文化財施設「まいぶんKAN」が5月2日開館。町内の出土品を展示するとともに、遺物の保存復元作業の見学会等を実施【北日本新聞】
- 3日 北茨城市漁業歴史資料館「よう・そろー」が5月1日開館。漁業体験もできる地域活性化の拠点施設として整備【常陽新聞】
「下関市立しものせき水族館 (海響館)」は01年4月に開館以来、入館者数500万人を突破。展示の工夫やショーの演出を毎年変更する等、リピーターを確保【山口新聞】
- 4日 九度山町は「松山常次郎記念館」を5月3日開館。松山氏の遺品、関連資料以外に娘婿・平山郁夫画伯の作品も展示【読売新聞】
- 5日 弟子屈町は「更科源藏文学資料館」を4月28日開館。郷土の詩人・更科氏関連資料以外に旅・観光の資料も展示【釧路新聞】
- 8日 「東京国立博物館」表慶館が4月17日改装開館。館の全容を紹介するガイダンス施設にリニューアル。教育普及スペースも設置【朝日新聞】

- 「氷見市海浜植物園」が4月28日改装開園。昆虫館を五感体験型スペースに改装し、ふれあい水槽コーナー等を新設【毎日新聞とやま版】
- 10日 池田市にダイハツ工業が「ヒューモビリティ・ワールド」を5月7日開館。ロボット操作等の体験型展示も整備。小学校の見学を優先的に受け入れ【大阪日日新聞】
- 12日 松本市は「松本市山と自然博物館」を5月3日開館。松本市アルプス山岳館を建て替え、展示を一新。展望台も整備【日本経済新聞長野経済版】
- 14日 「札幌芸術の森美術館」が展覧会等を紹介するネット番組が好評。米アップル社の音楽・映像配信サイト「アイチューンズ・ストア」の日本語版でアート番組3位にランク【北海道新聞】
- 舞鶴市は「まいづる智恵蔵」を4月28日開館。明治時代の赤れんが建物が建物に縄文期の丸木舟や美術品等の資料を展示【毎日新聞きょうと丹波・丹後版】
- 15日 環境省は洞爺湖町に「洞爺湖ビジターセンター・火山科学館」を5月14日開館。環境に配慮し、太陽光発電や地中採熱システムを導入【毎日新聞】
- 印旛村に「印旛村医科器械歴史資料館」が4月9日開館。華岡青洲の手術器械の複製等、医療器械約6000点を展示【千葉日報】
- 16日 松山市に「伊丹十三記念館」が5月15日開館。故・伊丹監督の映画、エッセー、CM作品や愛用品等を展示。館長は妻で女優の宮本信子氏【朝日新聞愛媛版】
- 18日 甲府市に「山梨平和ミュージアム」が5月26日開館。市民から資料提供を受け、個人が開館。資料提供者ごとに展示ブースを設置【山梨日日新聞】
- 19日 和歌山県立自然博物館の「自然博物館カード」が好評で集客効果を発揮。当初は高校生以下の来館者に配布していたが、大人からの要望にも対応【紀伊民報】
- 23日 札幌市は「札幌市水道記念館」を5月26日改装開館。水の恵みや水道の仕組みをパネルや遊具等で展示【読売新聞】
- 24日 信州大学農学部は南箕輪村に「食と緑の科学資料館」を5月26日開館。地域との交流・連携の拠点をめざす【長野日報】
- 25日 旭川市の「北鎮記念館」が6月10日開館。陸自旭川駐屯地内に移転新築。外観は旧第七師団の兵器庫をモデルに整備【毎日新聞】
- 31日 松本市美術館は展覧会の内容や来場者への対応等について評価する「市民モニター」制度を導入。公募市民と美術関連団体のメンバー30人で構成【市民タイムス】
- 国立民族学博物館は研究者全員が週末ごとに登場するトークイベント「みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう」を開催。開館30周年記念の目玉企画【東京新聞】

6月の記事（2007年）

- 2日 登別市は「のほりべつ文化交流館（カント・レラ）」を6月1日開館。中学校を改修し、埋蔵文化財の展示コーナーや体験学習室等を整備【室蘭民報】
- 石狩市に「石狩美術館」が6月1日開館。経営破綻した三セクビルを企業が購入し、フランスの銅版画やガラス作品の美術館に改修【朝日新聞】
- 名古屋市は「為三郎記念館」が6月1日改装開館。桜の壁画や琉球畳を使った和室を新設。運営する財団法人の設立20周年を機にリニューアル【中日新聞】
- 10日 「大阪市天王寺動物園」はリピーターの獲得や入園者の満足度アップに向けたビジネス案を公募。説明会には150社を超える様々な企業から申し込みが相次ぐ【読売新聞】
- 沖縄市の「沖縄こどもの国」が6月9日改装開館。老朽化した爬虫類館を新築。ワニ園や東ゲートと結ぶ空中園路も設置【琉球新報】
- 15日 「飛騨高山美術館」がミシュラン・旅行ガイドブックで三つ星を獲得。作品のクオリティーや建築美、ミュージアム・ウェディング等の来館者へのきめ細かいサービスが評価【岐阜新聞】
- 東大阪市の大阪樟蔭女子大学は「田辺聖子文学館」を6月9日開館。著作約450冊を壁面に展示。書斎の再現展示も図る【毎日新聞】
- 16日 「福岡市博物館」は90年10月に開館以来、入館者数700万人を突破。学校関係者を中心に年間約40万人が訪れ、アジア諸国からも多数来館【西日本新聞】
- 19日 「大阪市立自然史博物館」ではミュージアムサービス事業の収入が大幅に増加。ショップ運営やグッズ製作から販売までを手掛けるNPO法人の設立等が要因【大阪日日新聞】
- 奈良市に「奈良大学博物館」が4月開館。無料公開で地域に貢献。学芸員養成課程の実習施設としても活用【奈良新聞】
- 20日 広島市の「頼山陽史跡資料館」が6月20日改装開館。代表作「日本外史」を中心に据えた展示に刷新。木版本や海外版等も展示【中国新聞】
- 21日 岡山市の「岡山空襲平和資料館」が6月3日改装開館。開館5周年を機にレイアウトを大幅変更。20世紀の戦争年表も新たに作成【朝日新聞岡山版】
- 22日 福岡市の「マリワールド海の中道」がイルカと触れ合う「ふれ愛プール」を6月16日新設。利用者は胴長を着て浅めのプールに入り、イルカを間近に観察【西日本新聞】
- 28日 岐阜市の「岐阜県美術館」がレストランを6月27日リニューアルオープン。館直営から公募業者による委託運営に変更。白を基調に雰囲気一新【中日新聞】
- 焼津市は「焼津小泉八雲記念館」を6月27日開館。映像・図書コーナーや多目的ホールも整備。隣の図書館とは渡り廊下で連結【静岡新聞】
- 29日 「筑紫野市歴史博物館」は中学生が展示の企画や設営を手伝う「ジュニア学芸員」制度を採用。生徒の創意工夫が展示効果を高める等、好評【西日本新聞】
- 30日 「土浦市立博物館」が7月3日改装開館。調査研究に応じた最新情報を随時発信するための展示環境を整備。体験学習スペースも新設【茨城新聞】
- 「川越市立美術館」は団塊世代を対象にした「美術館めぐり・団塊ツアー2007」を開催。7月から12月まで毎月1回、館長が常設展や館内を案内【埼玉新聞】
- 港区に「秋山庄太郎写真芸術館」が6月24日開館。故・秋山氏のアトリエを改装。写真作品をはじめ、カメラ、レンズ、絵画コレクション等を展示【山形新聞】

7月の記事（2007年）

- 2日 美瑛町に「風の丘美瑛 大野勝彦美術館」が7月1日開館。「西美創造の杜」内に開設。義手の画家・大野勝彦氏の美術館は国内3館目【熊本日日新聞】
- 栄村は「絵手紙収蔵館」「山路智恵絵手紙美術館」を7月12日開館。収蔵館はスキー場駐車場に建設し、美術館はスキー場センターハウス体育館を改修【信濃毎日新聞】
- 上田市の「信濃デッサン館」が7月1日改装開館。資金難と入館者数減少で一時休館していたが、全国からの寄付金で改修を図り再出発【信濃毎日新聞】
- 近江八幡市に「千僧供地域歴史資料館」が7月1日開館。20年前に建設後、一度資金難で閉館した施設を住民が整備し、再度開館【京都新聞】
- 10日 大阪市の「キッズプラザ大阪」が7月10日改装開館。キッズストリートでは職業体験の充実を図り、わいわいスタジオではレイアウトを一新【大阪日日新聞】
- 11日 「武蔵野市立吉祥寺美術館」は吉祥寺からイメージされる和菓子のデザインを公募。地元の和菓子店が実際に販売。「吉祥寺アーカイブ」事業の第2弾【朝日新聞】
- 静岡市の「東海大学海洋科学博物館」が7月14日改装開館。クラゲギャラリーやクマノミ水族館を新設。水槽を工夫し生態を再現【静岡新聞】
- 13日 岡山市の「招き猫美術館」が別館〇庵（まるあん）を7月14日開設。講演会やワークショップの場に活用。カフェも設置【山陽新聞】
- 14日 小樽市は「小樽市総合博物館」を7月14日開館。旧小樽交通記念館を改装し、市博物館と市青少年科学技術館を統合【北海道新聞】
- 富山市は旧科学文化センターを「富山市科学博物館」として7月13日改装開館。常設展示を拡充し、海底林等の富山らしい展示を展開【毎日新聞とやま版】
- 15日 伊方町の本原PR館「伊方ビジターズハウス」が7月14日改装開館。原子炉格納容器の模型や中央制御室の再現展示等で発電所内を疑似体験【朝日新聞愛媛版】
- 18日 周防大島町は「星野哲郎記念館」を7月26日開館。星野歌歌を大型スクリーンの映像と歌で体感できるコーナーやカラオケコーナー等、5つのゾーンで構成【山口新聞】
- 19日 いわき市の「アクアマリンふくしま」が7月13日改装開館。オセアニックガレリアを改修。シーラカンスの研究成果コーナー等、6つの展示コーナーを新設【夕刊いわき民報】
- 20日 松江市の「島根県立八雲立つ風土記の丘資料館」が同展示学習館として7月21日改装開館。研修棟を改修・拡張する等、全面リニューアル【山陰中央日報】
- 21日 「金沢21世紀美術館」は友の会限定イベント「夕暮れおしゃべりツアー」を開催。会員が定期的に来館する機会を作り、固定ファンの拡大を図ることが目的【北國新聞】

- 22日 高岡市は「高岡市立博物館」を7月21日改装開館。常設展示を9年ぶりに一新。近世高岡の文化遺産群等を紹介【富山新聞】
- 出雲市は「出雲科学館」を7月21日改装開館。理科学習棟を新設。1日8クラスを受け入れ、市内全小中学校の利用が可能に【島根日日新聞】
- 23日 鹿追町に「アートコレクション福原記念館」が7月28日開館。スーパー創業者が私財を投じて建設。展示室5室以外にカフェも設置【十勝毎日新聞】
- 24日 「奈良国立博物館」は子ども対象の展覧会図録に企業広告を掲載。子どもの小遣いでも購入可能な、従来の5分の1の価格で図録販売が実現【読売新聞】
- 高知市の「高知県立文学館」が7月23日改装開館。現在活躍中の作家の展示スペースや子ども用スペースを新設。閲覧室も改装【高知新聞】
- 25日 横浜市の「八景島シーパラダイス」が7月27日リニューアルオープン。3つ目の水族館・ふれあいラグーンを新設。クジラに触れたり磯遊びをしながら生態を観察【神奈川新聞】
- 30日 四国の地銀四行が「ミュージアム88カードラリーin四国」を開催。4県で88以上の博物館や美術館に入館すると「四国マスター」に認定。抽選で旅行券等をプレゼント【四国新聞】
- 31日 宇都宮市は「うつのみや妖精ミュージアム」を7月31日開館。妖精学の研究者・井村君江氏から資料の寄贈を受け、再開発ビル内に設置【読売新聞】

8月の記事 (2007年)

- 3日 文化庁は博物館等を地域活性化に活用する「ミュージアムタウン構想」事業を創設。文化財や美術品に触れる機会を増やしたり、ボランティアの育成等を目指す【日本経済新聞】
- 4日 裾野市の富士サファリパークが「ワンダー・オブ・ヒッポ」を7月21日開設。水槽のガラス越しにカバ2頭の生態を観察【毎日新聞静岡版】
- 5日 登米市は「サトル・サトウ・アート・ミュージアム」を7月29日開館。同市出身の造形作家・佐藤達氏が作品を寄贈。生涯学習センター内に整備【河北新報】
- 8日 北広島町は「戦国の庭 歴史館」を8月5日開館。戦国武将・吉川元春の隠居所跡（国史跡）に建設。当時の暮らしの再現展示等を展開【朝日新聞広島版】
- 9日 岡山市の「招き猫美術館」によるユニークなサービスが話題。予想最高気温や当日の気温が35度を超えた場合、入館料を35%値引きするサービスを開始【山陽新聞】
- 10日 鹿児島県歴史資料センター黎明館や市立美術館等、鹿児島市内の各施設がお盆期間の開館や開館時間の延長を実施。観光シーズンの開館を望む声にこたえる【南日本新聞】
- 12日 倉敷市に「諸国玩具郷土館」が8月12日開館。個人が自宅近くに建設。壁に埋め込んだ扇ねぶたの武者絵が目玉【山陽新聞】
- 15日 財団法人地域創造は美術館を設置した自治体の評価方法を検討。評価項目の作成とともに自治体が美術館を戦略的に運営している成功例を公開予定【日本経済新聞】
- 16日 美術品等のインターネット公開が美術界に身近にする効果に期待。文化庁と総務省による「文化遺産オンライン」や独立行政法人国立美術館では「遊歩館」を開設【産経新聞】
- 18日 豊中市の「大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館」が8月18日改装開館。交流型ミュージアムを目指す学術博物館として機能を充実【大阪日日新聞】
- 22日 「安曇野アートライン推進協議会」の加盟館等9施設が開館時間を22時まで延長する「夜のミュージアム」を共同開催。ライトアップやポストカードのプレゼント等を実施【信濃毎日新聞】
- 25日 金沢市に「金沢金融歴史資料館」が8月24日開館。北陸銀行が支店ロビーに設置。創業時発行の1円札等を展示【朝日新聞石川版】
- 「鳥取県立博物館」は県内各地946件の祭りや行事を網羅したデータベースをHPで公開。文章のほか、約130件の画像や約90件の動画を掲載【読売新聞鳥取版】
- 31日 横浜美術館等が開発した美術図書横断検索システム「ALC」がアート・ドキュメンテーション学会賞の推進賞を受賞。参加8館の蔵書約64万6300冊が検索可能【朝日新聞神奈川版】
- 山梨県内の博物館等102館が参加する「ミュージアム甲斐・ネットワーク会議」が設立。県立美術館等の収蔵品の貸し借りや共同研究等の各種連携事業を計画【山梨日日新聞】

9月の記事 (2007年)

- 2日 大阪市立美術館等、市立8施設が館を代表する所蔵品を同時公開する「ミュージアムウィークス大阪2007・秋」を開催。施設の連携を強めるための初の試み【産経新聞】
- 6日 萩市は「萩博物館」の常設展示室を9月14日改装開館。自然科学ゾーンや回廊展示室を新設し、展示資料を増加【山口新聞】
- 8日 熊本県立装飾古墳館分館の「歴史公園鞠智城・温故創生館」と韓国・百濟歴史文化館が姉妹館締結。研究情報の共有や発掘物の鑑定協力等で交流【西日本新聞熊本版】
- 9日 「神戸海洋博物館」は87年4月に開館以来、入館者数500万人を突破。川崎重工グループの企業博物館「カワサキワールド」の併設が相乗効果を発揮【神戸新聞】
- 11日 札幌市立大学等がITを活用した動物園の支援事業を開始。無線ICタグを活用した入園者の行動分析や閉園後のネット中継等、「札幌市円山動物園」を舞台に実証【北海道新聞】
- 渋谷区に「こども鉱物館」が8月1日開館。鉱物研究家が小中学生対象の施設を整備。坑道風の洞窟等、展示に工夫【東京新聞】
- 13日 美術館のコレクション収集機能を問う試みが各地で展開。「広島市現代美術館」では作品とともに購入年や購入価格を示した「MONEY TALK」展が開催【読売新聞】
- 14日 守山市の「佐川美術館」が「樂吉左衛門館」を9月15日開館。佐川急便創業50周年記念事業。館内には茶室を併設【毎日新聞しが版】
- 15日 「金沢21世紀美術館」は04年10月に開館以来、入館者数400万人を突破。有料入館者数は約25%に該当する約99万人で、目標値をほぼ達成【朝日新聞石川版】
- 「大分市美術館」が特別養護老人ホームで「おでかけ美術鑑賞会」を開催。美術館に出かける機会の少ない高齢者に美術鑑賞の場を提供する初の試み【大分合同新聞】
- 18日 成田市に「日本近代文学館」の分館が9月15日開館。本館の資料増加に伴い、新たに寄付を募って建設。湿気を防ぐ高床式の建物を整備【読売新聞】
- 21日 倉敷市の「加計美術館」が9月22日改装開館。グループ創立者の足跡を紹介するコーナーを新設。親族が展示品を選定【山陽新聞】
- 23日 犬山市の「博物館明治村」が「芝川邸」を9月22日公開。兵庫県より移築復元した明治期の先駆的住宅を新たに配置【中日新聞】
- 24日 大仙市の「秋田県立農業科学館」が9月22日改装開館。第二展示室を改装し、きりたんぼ作り等の実演体験機能を充実【秋田魁新報】
- 25日 江東区の「清水建設技術研究所 建設技術歴史展示室」が10月1日改装開館。展示スペースを15倍に拡張。コンクリートをテーマにした新展示も展開【建設通信新聞】
- 「神戸市立王子動物園」は飼育員以外の学生や市民が動物ガイドを行う初の試みを開始。神戸大学の学生による実施経験から市民ガイドの養成を計画【毎日新聞こうべ版】
- 29日 「毛呂山町歴史民俗資料館」と同館ボランティアが全国の流鏑馬の現状をデータベース化。調査内容を取めたCD-ROM200枚を作成し、観光協会等に配布【読売新聞埼玉県南版】
- 「千葉県立房総のむら」は豊富な体験メニューや人気メニューの回数を増やす等の工夫で入館者が増加。成田空港に近い立地で外国人の入館者も急増【朝日新聞ちば版】
- 「藤枝市文学館」が9月29日開館。収蔵資料1万5千点を企画展形式で紹介。子ども学習室や閲覧コーナーも整備【中日新聞浜松・遠州版】

表紙写真撮影：ヴィスタジャパン 廣崎節雄(島根県立古代出雲歴史博物館、がすてなーに ガスの科学館)、フォワードストローク(北九州市立文学館、金沢能楽美術館)



ミュージアム・データ No.74 2008年12月1日発行

発行：(株) 丹青研究所 〒110-0005 東京都台東区上野5-3-4 植木ビル
http://www.museum.or.jp/tanseiken/

企画：文化空間研究本部／編集：情報センター ☎03-3836-7598
©Tansei INSTITUTE